コ・フェスタ2019
実施報告書

CoFesta
2019

令和2年3月

特定非営利活動法人映像産業振興機構

目　次

1　基本情報

ⅰ　はじめに（委員長挨拶）……2

ⅱ　事業概要（事業目的・実施体制・運営組織）……3

実行委員会委員一覧……4

ⅲ　イベント一覧……5

ⅳ　百人委員会リスト……6

2　コ・フェスタ実行委員会……7

3　プロモーション　広報制作物（ポスター＆ロゴ）……8

4　イベント報告

ⅰ　コアイベント……9

ⅱ　オフィシャルイベント……20

ⅲ　パートナーイベント……38

ⅳ　実行委員長、副委員長によるイベント開会式来賓出席と挨拶……66

参考資料

ⅰ　コ・フェスタアンバサダー施策について……67

ⅱ　イベントへの協力……67

・氏名は敬称略を基本とします。
・株式会社、有限会社、社団法人、財団法人、独立行政法人は、それぞれ㈱、㈲、㈳、㈶、�独と略すことを基本とします。
・一般社団法人、公益社団法人、一般財団法人、公益財団法人、特定非営利活動法人は、それぞれ（一社）、（公社）、（一財）、（公財）、（特非）と略すことを基本とします。
・国立研究開発法人、協同組合は、それぞれ（国研）、（協組）と略すことを基本とします。

1　基本情報

1- i　はじめに



コ・フェスタ実施報告書発行にあたり

コ・フェスタ2019 実行委員長　大谷　信義

皆様方におかれましては、「コ・フェスタ2019」の開催に際しまして、多大なるご支援、ご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

コ・フェスタは、日本が世界に誇るゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画といったコンテンツ産業およびファッション、デザイン等コンテンツと親和性の高い産業に関わる各種イベントを統合的に海外に発信するための、海外発信力強化支援プロジェクトです。2007年から開催されて13年目を迎えた2019年度は、32のコ・フェスタ認定イベントへ、国内外より広く多くの方にご来場いただくとともに、業界の垣根を越えた交流やビジネス展開を促進いたしました。

今年度は世界最大のアニメーション映画祭であるフランスのアヌシー国際アニメーション映画祭において20年ぶりに日本が名誉国に選ばれ、我が国が誇るコンテンツはじめクリエイターを世界に一層アピールする機会を得ました。一方、年度の後半には新型コロナウイルスの影響などにより、「Anime Japan2020」はじめ3つのイベントが開催中止となったことは大変残念なことでした。

来年度はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催され、訪日外国人旅行客数は4000万人台に達することが期待されています。多くの外国人が日本の文化に触れ、映像コンテンツを認知するまたとない機会です。この13年間のコ・フェスタで培ったコンテンツ業界としての一体感と海外への発信力を一段と高めるべく、次の諸準備を進めてまいりたいと考えております。

ここに、関係各位のご協力のもと、コ・フェスタ2019の実施報告書がまとまりましたので、ご一読いただければ幸いです。

最後になりましたが、コ・フェスタ2019にご参加いただきましたコアイベント、オフィシャルイベント、パートナーイベントの主催者・後援者、また百人委員会各企業様および関係者の皆様方の多大なるご協力に重ねて御礼申し上げます。

大谷 信義

1-ii　事業概要

■事業目的

日本のアニメ、マンガ、映画、音楽等のコンテンツは、クールジャパンを代表する要素であり、今後も更なる成長分野として期待されている。この成長を継続し、発展させていくためには、コンテンツの海外展開を通じた市場を拡大するとともに、コンテンツを主軸としたオープンイノベーションを促進し、関連産業への波及を生み出していくことが重要である。このような観点から、本事業では、日本コンテンツに係るイベントのネットワーク構築を行い、コンテンツを主軸としたオープンイノベーションの在り方等を検討し、国内外に向けて情報発信することで、日本コンテンツの市場拡大につなげることを目的とする。

■実施体制

本事業は特定非営利活動法人映像産業振興機構（VIPO）が経済産業省から受託した「平成31年度新コンテンツ創造環境整備事業（コンテンツ関連ビジネスマッチング事業）」の一環である。特定非営利活動法人映像産業振興機構がコ・フェスタ実行委員会、コ・フェスタ実行本部を設置し、本事業の検討と運営を行った。

●コ・フェスタとは

コ・フェスタ（JAPAN国際コンテンツフェスティバル）とは、日本が誇るゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画といったコンテンツ産業およびファッション、デザイン等コンテンツと親和性の高い産業に関わる各種イベントを効果的に海外に発信するための、海外発信力強化支援プロジェクトである。

名　称：コ・フェスタ（JAPAN国際コンテンツフェスティバル）2019
主　催：コ・フェスタ（JAPAN国際コンテンツフェスティバル）実行委員会
開催場所：日本各地および海外
2019年度参加イベント：国内外35イベント（内3イベントが中止）
2019年度総来場者数：約214万人（2020年3月25日時点）

●取組内容

・イベント連携

イベント間の協力体制の促進のためコ・フェスタ実行委員会を実施し、各イベント主催者間やコンテンツ産業と他産業との連携のための情報共有等を図った。

■運営組織

●実行委員会　コンテンツ系各業界および関係省庁、関係団体からの委員で構成する。
●実行本部　実行委員会の方針のもとに、事業の運営、統括を実施する。

コ・フェスタ2019実行委員会委員一覧

2019年7月23日時点（敬称略）



副委員長　依田 巽



副委員長　迫本 淳一



副委員長　重延 浩



副委員長　松谷 孝征

【委員長】

大谷　信義	おおたに のぶよし	一般社団法人 映画産業団体連合会 会長 （松竹株式会社 取締役会長）

【副委員長】

依田　巽	よだ たつみ	一般社団法人 日本経済団体連合会 幹事・産業競争力強化委員会 エンターテインメント・コンテンツ産業部会長 （ギャガ株式会社 代表取締役会長兼社長CEO）
迫本　淳一	さこもと じゅんいち	公益財団法人 ユニジャパン 代表理事・理事長 （松竹株式会社 代表取締役社長）
重延　浩	しげのぶ ゆたか	株式会社テレビマンユニオン 会長 ゼネラルディレクター 取締役
松谷　孝征	まつたに たかゆき	特定非営利活動法人 映像産業振興機構 理事長 （株式会社手塚プロダクション 代表取締役社長）

【委員】

赤星　康	あかほし やすし	独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）副理事長
市原　健介	いちはら けんすけ	一般財団法人 デジタルコンテンツ協会 専務理事
井上伸一郎	いのうえ しんいちろう	株式会社KADOKAWA 代表取締役副社長
上田　良一	うえだ りょういち	日本放送協会 会長
大久保好男	おおくぼ よしお	一般社団法人 日本民間放送連盟 会長 （日本テレビ放送網株式会社 代表取締役会長執行役員）
岡田　裕介	おかだ ゆうすけ	一般社団法人 日本映画製作者連盟 代表理事（会長） （東映株式会社 代表取締役グループ会長）
小野　直路	おの なおじ	一般社団法人 衛星放送協会 会長 （株式会社東北新社 社外取締役・監査等委員）
重村　博文	しげむら ひろふみ	一般社団法人 日本レコード協会 会長 （キングレコード株式会社 特別顧問）
野間　省伸	のま よしのぶ	株式会社講談社 代表取締役社長
早川　英樹	はやかわ ひでき	一般社団法人 コンピュータエンターテインメント協会 会長 （株式会社コナミデジタルエンタテインメント 代表取締役社長）
久松　猛朗	ひさまつ たけお	公益財団法人 ユニジャパン 東京国際映画祭 フェスティバル・ディレクター
三宅　正彦	みやけ まさひこ	一般社団法人 日本ファッション・ウィーク推進機構 理事長 （株式会社TSIホールディングス 代表取締役会長）
矢内　廣	やない ひろし	ぴあ株式会社 代表取締役社長

（以上、50音順）

森　孝之	もり たかゆき	内閣府 知的財産戦略推進事務局 次長 文化庁 審議官
吉田　博史	よしだ ひろし	総務省 情報流通行政局 官房審議官（情報流通行政局担当）
志野　光子	しの みつこ	外務省 大臣官房（外務報道官・広報文化組織） 国際文化交流審議官
小笠原陽一	おがさわら よういち	経済産業省 大臣官房審議官（IT戦略担当）
髙科　淳	たかしな じゅん	国土交通省観光庁 国際観光部 国際観光部長
松本　明子	まつもと あきこ	東京都 産業労働局観光部長

【監事】

櫛引　則彦	くしびき のりひこ	一般社団法人 日本映画テレビ技術協会 専務理事
福浦　与一	ふくうら よいち	一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟 理事長 （IVSテレビ制作株式会社 代表取締役社長）

1-iii　コ・フェスタ2019 イベント一覧

2020年3月5日時点

	コアイベント	開催期間	主な開催場所
1	東京ゲームショウ 2019	9/12(木)～15(日)	幕張メッセ
2	Japan Content Showcase 2019	10/22(火・祝)～30(水)	池袋 サンシャインシティコンベンションセンター、渋谷エクセルホテル東急 TSUTAYA O-EAST、Veats Shibuya、他
	TIFFCOM 2019 Marketplace for Film & TV in Asia	10/22(火・祝)～24(木)	サンシャインシティ コンベンションセンター　他
	東京国際アニメ祭 2019 (TIAF)	10/22(火・祝)～24(木)	サンシャインシティ コンベンションセンター　他
	第16回東京国際ミュージック・マーケット (TIMM)	10/28(月)～30(水)	渋谷エクセルホテル東急 、Veats Shibuya 、TSUTAYA O-EAST
3	第32回東京国際映画祭	10/28(月)～11/5(火)	六本木ヒルズ、EXシアター六本木(港区)、他
4	AnimeJapan 2020	中止　2020/3/21(土)～24(火)	東京ビッグサイト

	オフィシャルイベント	開催期間	主な開催場所
1	KYOTO CMEX 2019	6/1(土)～2020年1月	みやこめっせ(京都市勧業館)、京都国際マンガミュージアム、京都文化博物館、 東映京都撮影所、松竹撮影所、東映太秦映画村など
2	第22回文化庁メディア芸術祭 受賞作品展	6/1(土)～16(日)	日本科学未来館、フジテレビ湾岸スタジオ、東京国際交流館、 BMW GROUP Tokyo Bay、シンボルプロムナード公園 他
3	Rakuten Fashion Week TOKYO	10/14(月・祝)～20(日)	渋谷ヒカリエ、表参道ヒルズ、他
4	CEATEC 2019	10/15(火)～18(金)	幕張メッセ
5	国際ドラマフェスティバル in Tokyo 2019 (東京ドラマアウォード 2019)	10/28(月)・29(火)	東京プリンスホテル、千代田放送会館
6	第46回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール	11/1(金)～8(金)	NHK 放送センター　他
7	Tokyo Docs 2019	11/4(月・休)～7(木)	JA 共済ビル カンファレンスホール、他
8	Inter BEE 2019	11/13(水)～15(金)	幕張メッセ
9	デジタルコンテンツ EXPO 2019	11/13(水)～15(金)	幕張メッセ
10	2019国際ロボット展	12/18(水)～21(土)	東京ビッグサイト　青海・西・南ホール

	パートナーイベント	開催期間	主な開催場所
1	第35回ATP賞テレビグランプリ	7/11(木)	六本木ヒルズ ハリウッドホール
2	SKIP シティ国際Dシネマ映画祭 2019	7/13(土)～21(日)	SKIP シティ 埼玉県川口市
3	第44回湯布院映画祭	8/22(木)～25(日)	由布市湯布院公民館
4	C3 AFA TOKYO 2019	8/24(土)・25(日)	幕張メッセ
5	第41回 ＰＦＦ(ぴあフィルムフェスティバル)	9/7(土)～21(土)	国立映画アーカイブ
6	京都国際マンガ・アニメフェア 2019	9/21(土)・22(日)	みやこめっせ、京都国際マンガミュージアム
7	きものサローネ in 日本橋 2019	10/4(金)～6(日)	YUITO 日本橋室町野村ビル、COREDO 室町 1 日本橋三井ホール
8	吉祥寺アニメワンダーランド 2019	10/10(木)～20(日)	吉祥寺駅周辺(吉祥寺シアター、井の頭公園、他)
9	No Maps 2019	10/16(水)～20(日)	札幌市内各所
10	第11回京都ヒストリカ国際映画祭	10/26(土)～11/4(月・祝)	京都文化博物館、他
11	MPTE AWARDS 2019 第72回表彰式	10/31(木)	六本木アカデミーヒルズ49　オーディトリアム
12	第10回映文連国際短編映像映画祭「映文連アワード 2019」	表彰式：11/25(月) 上映会：11/26(火)～27(水)	表彰式：国立新美術館講堂　ユーロライブ(渋谷)
13	第13回アジア国際子ども映画祭	12/7(土)	兵庫県南あわじ市文化体育館
14	ヨコハマ・フットボール映画祭 2020	2020/2/25(土)～31(金)	横浜市開港記念会館
15	東京アニメアワードフェスティバル 2020	中止　2020/3/13(金)～16(月)	東京・池袋

	海外パートナーイベント	開催期間	主な開催場所
1	HYPER JAPAN Festival 2019	7/12(金)～14(日)	イギリス ロンドン Olympia London 他
2	2019年 Comic Exhibition 漫画博覧会	8/1(木)～5(月)	台湾 台北世界貿易センター
3	バンコク日本博 2019	8/30(金)～9/1(日)	サイアムパラゴン5階 ロイヤルパラゴンホール
4	Madman Anime Festival -Melbourne2019	9/14(土)・15(日)	メルボルン コンベンション アンド エキシビジョン センター
5	C3 AFA SINGAPORE 2019	11/29(金)～12/1(日)	シンガポール サンテック コンベンションセンター
6	C3 AFA HONG KONG 2020	中止	香港コンベンション・アンド・エキシビジョン・センター

(開催時期順)

1-iv　コ・フェスタ百人委員会（通称：百人委員会）企業一覧

コ・フェスタを広く経済界から支援するため2007年に設立。
コンテンツ産業とその他の産業との連携及びグローバル展開の強化を目的とする。

■百人委員会 委員長

伊藤忠商事株式会社 代表取締役会長CEO　岡藤 正広

■委員一覧　百人委員会就任企業 95社

株式会社IHI
株式会社ADKエモーションズ
株式会社　朝日新聞社
伊藤忠商事株式会社
株式会社 IMAGICA GROUP
ウシオエンターテインメントホールディングス株式会社
株式会社NHKエンタープライズ
NBCユニバーサル・エンターテイメントジャパン 合同会社
沖電気工業株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社KADOKAWA
株式会社　カプコン
関西テレビ放送株式会社
株式会社 木下グループ
ギャガ株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
キリンホールディングス株式会社
キングレコード株式会社
株式会社クオラス
株式会社コーエーテクモゲームス
株式会社　講談社
コダック合同会社
株式会社コナミデジタルエンタテインメント
株式会社ゴンゾ
株式会社サンリオ
株式会社CBCテレビ
松竹株式会社
昭和電工株式会社
スカパーJSAT株式会社
株式会社スクウェア・エニックス・ホールディングス
住友化学株式会社
住友商事株式会社
セイコーエプソン株式会社
ソニー株式会社
ソニーPCL株式会社
株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント
大日本印刷株式会社
株式会社大和証券グループ本社
株式会社タカラトミー
中京テレビ放送株式会社
株式会社　TBSテレビ
株式会社ティー・ワイ・オー
株式会社 テイチクエンタテインメント
デジタルハリウッド大学
株式会社手塚プロダクション
テレビ愛知株式会社
株式会社テレビ朝日
テレビ大阪株式会社
株式会社テレビ東京
株式会社　電通
東映株式会社
東映アニメーション株式会社
東海テレビ放送株式会社
東京ガス株式会社
東宝株式会社
株式会社東北新社
株式会社トーセ
株式会社 トーハン
凸版印刷株式会社
トヨタ自動車株式会社
名古屋テレビ放送株式会社
日活株式会社
日揮株式会社
株式会社 日経BP
株式会社日本経済広告社
株式会社　日本経済新聞社
日本コロムビア株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本電気株式会社
日本航空株式会社
野村ホールディングス株式会社
株式会社 博報堂
株式会社博報堂DYメディアパートナーズ
株式会社バップ
株式会社バンダイナムコホールディングス
ぴあ株式会社
株式会社 日立製作所
株式会社ヒューマックスシネマ
株式会社フォーライフ ミュージックエンタテイメント
富士通株式会社
株式会社フジテレビジョン
株式会社ポニーキャニオン
株式会社ホリプロ
株式会社　毎日新聞社
株式会社毎日放送
株式会社みずほフィナンシャルグループ
株式会社三菱UFJフィナンシャルグループ
森ビル株式会社
ユニバーサル ミュージック合同会社
吉本興業株式会社
株式会社読売新聞グループ本社
讀賣テレビ放送株式会社
琉球放送株式会社
株式会社ワーナーミュージック・ジャパン
株式会社WOWOW

（2019年7月23日時点 五十音順）

コ・フェスタの最高意思決定機関として、上申された事項を審議、決議。コ・フェスタ各イベントの実施および広報活動ならびに各業界イベントとの協力体制の確認と強化を行った。コ・フェスタ事業の目的を実行委員で共有し、意思統一を図ることができた。



●開催概要

日　時：2019年7月23日（火）15:00～16:15
場　所：TKP新橋カンファレンスセンター新館　ホール11D
参加者：実行委員、各イベント主催者、百人委員、随行者、実行本部など70人
司　会：コ・フェスタ実行本部　映像産業振興機構・事務局次長　槙田寿文
議　長：コ・フェスタ実行委員長　大谷信義



●会議内容

1．開会の挨拶
特定非営利活動法人映像産業振興機構　専務理事・事務局長 市井三衛

2．審議事項
第1号議案　コ・フェスタ実行委員選任の件
新委員3人と新監事2人の紹介。実行委員長、副委員長の留任の報告と挨拶。
第2号議案　コア・オフィシャルイベントなど承認の件と各イベント説明
2019年7月23日時点のコアイベント4、オフィシャル10イベント、パートナー15イベント、海外パートナー6イベントの承認。コアイベントとオフィシャルイベントの各主催者からイベント概要説明が行われた。



3．報告事項
・コ・フェスタ百人委員会についての説明

4．関係各省庁よりコ・フェスタ2019海外展開支援へのメッセージ
内閣府、総務省、外務省、文化庁、経済産業省、観光庁、東京都の7人からコ・フェスタ事業継続の重要性を込めたメッセージを頂いた。

内閣府 知的財産戦略推進事務局 次長	森　孝之
総務省 情報流通行政局 官房審議官	吉田 博史
外務省 文化交流・海外広報課 上席専門官	高屋 知志
文化庁 参事官	坪田 知広
経済産業省 商務情報政策局コンテンツ産業課長	髙木 美香
国土交通省 観光庁 国際観光部長	渡邊　崇
東京都 産業労働局 観光部 地域振興担当課長	菅沼 聡人





3　プロモーション

■広報制作物　ポスター＆ロゴ



コ・フェスタ2019のポスター・ロゴのデザインの監修・制作を、クリエイティブスタジオの㈱サムライに委託した。

仕　様：Ｂ２サイズ　片面カラー

デザイン：㈱サムライ

配布先：実行委員会、コアイベント事務局、オフィシャルイベント事務局、パートナーイベント事務局、関連省庁、百人委員会　ほか関連団体など約150カ所

4- i　コ・フェスタ2019コアイベント

コ・フェスタコアイベントは、コ・フェスタイベントのうち、国際性及び規模等において、コ・フェスタの集中的な支援による効果が期待できるイベントとして、コ・フェスタ実行委員会が認定したイベントである。2019 年度は 4 イベントが認定された。（1 イベントは中止）世界各国から訪れたキーパーソンとのビジネスマッチングは増加傾向にある。他団体との連携や異業種との交流も積極的に図られ、新しい取り組みを実施しているイベントは来場者も増えている。

1	東京ゲームショウ2019
2	Japan Content Showcase 2019 ・TIFFCOM2019 Marketplace for Film & TV in Asia ・東京国際アニメ祭 2019 秋（TIAF） ・第 16 回東京国際ミュージックマーケット（TIMM）
3	第 32 回東京国際映画祭（TIFF）
4	AnimeJapan 2020　※開催中止

東京ゲームショウ2019

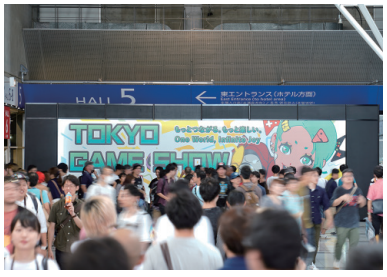
TOKYO GAME SHOW 2019











会　期：ビジネスデイ：2019年9月12日（木）・13日（金）、
　　一般公開日：2019年9月14日（土）・15日（日）
会　場：幕張メッセ
主　催：（一社）コンピュータエンターテインメント協会（CESA）
共　催：日経BP
後　援：経済産業省
対　象：コンピュータエンターテインメント業界関係者、一般来場者
公式サイト：http://tgs.cesa.or.jp/

総来場者数：262,076人
ビジネスデイの来場者数：68,442人
出展社数：665社（国内出展社数：350社　海外出展社数：305社）
出展参加国と地域数：40の国と地域
商談件数：1,496件
プレス社数：2,180社（国内プレス社数：1,374社　海外プレス社数：806社）

■開催内容

東京ゲームショウ2019は「もっとつながる。もっと楽しい」をテーマに、昨年の2,338小間を大きく上回る2,417小間という過去最大規模での開催となった。出展した企業・団体の数は655に上り、そのうち国内出展社数は350、これも過去最多となった。海外出展社数も4年連続で300を超えている。来場者数は262,076人で、7年連続25万人超えを記録し、盛況のうちに幕を閉じることができた。

今年は、中学生以下の子供たちとその家族のための特別なエリアとして、最新ゲームが遊べるゲーム体験ゾーン、子供向けのゲームプログラミング・スクールの体験クラス、中学生以下の子供向けeスポーツ大会を実施した、「ファミリーゲームパーク」の入場無料化や、9～11ホールの北屋外フードコート設置など、来場者向けの新たな施策を実施するとともに、来場できない方々に向けては公式動画を大幅リニューアルした。ステージイベントや基調講演などのライブ配信に加え、オフィシャルサポーターの紹介や、東京ゲームショウ出展各社の情報などを事前PRした会期前動画、および、出展ブースやイベントステージ登壇者、e-Sports X優勝者、各コーナーを取材し、コンパクトに編集して会期中に随時配信したニュースクリップ動画、約100本の動画を英語字幕付きに制作し、イベントの情報を国内だけでなく、世界中に配信した。

eスポーツ専用大型ステージの「e-Sports X（クロス）」も4日間を通じ、人気ジャンルである対戦型格闘ゲームやFPS（ファースト・パーソン・シューティング）のほか、スマートフォンアプリのゲームなど、大人から子供まで楽しむことができる幅広いジャンルで熱戦が繰り広げられ、来場者を沸かせた。

BtoBにおいては、商談を推進するための施策としてビジネスマッチングシステムの刷新を行った結果、利用者は47ヵ国に上り、商談申込数は前年182%増となる4,780件、商談確定数は前年224%増となる1,496件を実現し、国際的なビジネスの場としての役割を強めた。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

●「ファミリーゲームパーク」を、小学生以下に加え、中学生と同伴の保護者も入場無料化。

「ファミリーゲームパーク」は、中学生以下の子供たちとその家族のためだけの特別なエリアで、今年は入場を無料にした。

最新ゲームが遊べるゲーム体験ゾーンや、子供向けのゲームプログラミング・スクールの体験クラス、中学生以下の子供向けeスポーツ大会を実施した。

●事前PRの会期前動画および、会期中のニュースクリップ動画、約100本の動画配信

本年は動画によるPRを新たに取り組み、会期前動画19本を制作し、公式動画として配信した。

会期前に配信する動画プラットフォームを拡充し、niconicoだけでなく、YouTube、Twitter、Facebookも利用した。

東京ゲームショウ2019

TOKYO GAME SHOW 2019

すべての会期前動画に英語字幕を掲載し、海外の視聴者でも内容が分かるようにした。

会期前動画の視聴回数は合計で280,960回。

会場内の主要な出展ブース、イベントステージ登壇者、e-Sports X優勝者、各コーナーなどに取材して会場内の見どころを数分のコンパクトなニュースクリップ映像にまとめ、ネット視聴者にTGSの魅力が伝わるようにして会期中に随時情報発信した。

制作したニュースクリップ映像（78本）の視聴回数合計は1,118,129回で、視聴回数が最も多かったプラットフォームはTwitterだった。



コアイベント

Japan Content Showcase 2019

会　期：＜池袋会場＞2019年10月22日（火）～24日（木）、＜渋谷会場＞10月28日（月）～30日（水）
会　場：池袋 サンシャインシティ コンベンションセンター（TIFFCOM/TIAF）
　　渋谷 エクセルホテル東急（TIMM）
主　催：経済産業省／（特非）映像産業振興機構／（公財）ユニジャパン／（一財）音楽産業・文化振興財団／
　　（一社）日本動画協会
共　催：第33回東京国際映画祭（TIFFCOMとの共催）
後　援：総務省／外務省／観光庁／豊島区／（一社）映画産業団体連合会／（一社）衛星放送協会／
　　（一社）外国映画輸入配給協会／国際交流基金アジアセンター／（一社）コンサートプロモーターズ協会／
　　（一社）コンピュータエンターテインメント協会／（一社）私的録音補償金管理協会／（一財）デジタルコンテンツ協会／
　　（協組）日本映画製作者協会／（一社）日本映画製作者連盟／（一社）日本映像ソフト協会／（一社）日本音楽事業者協会／
　　（一社）日本音楽出版社協会／（一社）日本音楽制作者連盟／（一社）日本音楽著作権協会／
　　（一社）日本経済団体連合会／（公社）日本芸能実演家団体協議会／㈱日本貿易振興機構／（一社）日本民間放送連盟／
　　（一社）日本レコード協会
対　象：映画、テレビ、アニメーション、音楽、キャラクター・ライセンス/商品化、原作（小説/コミック）、出版、モバイル/インターネット、ホーム・エンターテインメント（VOD、DVD、Blu-ray）、イベント/コンサート、ゲーム、フィルムコミッション/フィルムファンド、ポストプロダクション/翻訳、サービス・プロバイダー、タレント・エージェンシー、業界団体、官公庁/大使館、地方自治体などのコンテンツホルダー様および関連団体・企業
公式サイト：https://www.jcs.tokyo/ja/（日本語サイト）
　　https://www.jcs.tokyo/en/（英語サイト）
総来場者数：16,217　※商談会会場のライブ来場者数を除く
出展団体数：405団体（過去最高）（国内出展社：175社／海外出展社：230社（海外約30%増））
出展参加国と地域数：27の国と地域
登録バイヤー数：948人（国内バイヤー：224人　海外バイヤー：724人）
商談件数：8,335件（過去最高）
成約金額：77,327,214 USドル（過去最高）

■開催内容
詳細の開催内容についてはTIFFCOM2019 ~Marketplace for Film and TV in Asia~、TIMM、TIAFの各ページを参照の事

TIFFCOM2019 ~Marketplace for Film and TV in Asia~/ Japan Content Showcase 2019

TIFFCOM Marketplace for Film & TV in Asia

会　期：2019年10月22日（火）～24日（木）（TIFFCOM/TIAF）、
　　10月28日（月）～30日（水）（TIMM）
会　場：池袋 サンシャインシティ コンベンションセンター（TIFFCOM/TIAF）、
　　渋谷 エクセルホテル東急（TIMM）
主　催：経済産業省／（特非）映像産業振興機構／（公財）ユニジャパン／
　　（一財）日本音楽産業・文化振興財団／（一社）日本動画協会
共　催：第32回東京国際映画祭（TIFFCOMとの共催）
後　援：総務省／外務省／観光庁／豊島区／（一社）映画産業団体連合会／
　　（一社）衛星放送協会／（一社）外国映画輸入配給協会／
　　国際交流基金アジアセンター／（一社）コンサートプロモーターズ協会／
　　（一社）コンピュータエンターテインメント協会／
　　（一社）私的録音補償金管理協会／（一財）デジタルコンテンツ協会／
　　（協組）日本映画製作者協会／（一社）日本映画製作者連盟／
　　（一社）日本映像ソフト協会／（一社）日本音楽事業者協会／
　　（一社）日本音楽出版社協会／（一社）日本音楽制作者連盟／
　　（一社）日本音楽著作権協会／（一社）日本経済団体連合会／
　　（公社）日本芸能実演家団体協議会／㈱日本貿易振興機構／
　　（一社）日本民間放送連盟／（一社）日本レコード協会
対　象：映画、テレビ、アニメーション、音楽、キャラクター・ライセンス/商品化、原作（小説/コミック）、出版、モバイル/インターネット、ホーム・エンターテインメント（VOD、DVD、Blu-ray）、イベント/コンサート、ゲーム、フィルムコミッション/フィルムファンド、ポストプロダクション/翻訳、サービス・プロバイダー、タレント・エージェンシー、業界団体、官公庁/大使館、地方自治体などのコンテンツホルダー様および関連団体・企業
公式サイト：https://www.jcs.tokyo/ja/（日本語サイト）
　　https://www.jcs.tokyo/en/（英語サイト）

総来場者数：16,217人
出展団体数：405団体（過去最多）
　　（国内：175団体　海外：230団体（海外約30% UP））
出展参加国と地域数：27の国と地域
登録バイヤー数：948人（国内：224人　海外：724人）
商談件数：8,335件（過去最多）
成約金額：77,327,214 USドル（過去最高）
※Japan Content Showcase2019としてのデータ











■開催内容

▶セミナーおよびマッチングイベント

　海外バイヤーをはじめ多くのコンテンツ関係者を招聘してビジネスマッチングの商談会やパーティをJapan Content Showcase（JCS）の会場のみならず、近隣施設でも連日開催し、世界各国から訪れたキーパーソンとのマッチングを実現。「CHINA DAY」（詳細は後記）として、2つの中国市場に関するセミナーを開催したほか、イタリアとの共同制作を推進するセミナー、ピッチングコンテストなど多彩なセミナー、イベントを行った。

▶国際交流基金との特別プロジェクト

　TIFFCOMと国際交流基金アジアセンターは、2014年より2020年までの7年間にわたり、映画・TVなどのコンテンツを通じたアジアにおける交流事業を行っている。その一環として東南アジア8の国と地域14社より、12名のバイヤーと2名のセラーを招聘しネットワーキング機会を創出。また、招聘バイヤーには、日本のコンテンツセラーとのネットワーキングの場を設けることにより本プロジェクトの活用を促した。

▶JETROによる日本コンテンツ輸出支援イベント

　日本貿易振興機構（ジェトロ）は、日本の映像や音楽の海外展開を促進するため、海外のバイヤーとのビジネスマッチング商談会を実施。作品の購入だけではなく、

TIFFCOM2019 ~Marketplace for Film and TV in Asia~/ Japan Content Showcase 2019

共同製作パートナーを探す企業も招聘した。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

▶CHINA DAY

中国から2つのパビリオンが初参加し、出展が激増。日中映画共同製作協定が締結されたことなども勘案し、一層の協業を推進すべく初の試みとして、初日の10月22日（火）を「CHINA DAY」とした。

当日は、映画監督の石井裕也氏（『舟を編む』『町田くんの世界』）が登壇した、「中国映画・テレビ業界における国際交流について」ほか中国関連のセミナー2本に加え、マーケットのオープニングイベントとしてウェルカムパーティを中国と共同開催。

▶TIFFCOMxTIFFスペシャルツアー

池袋会場で開催されるTIFFCOM・TIAFと、渋谷会場で開催されるTIMM、およびTIFFCOMの共催イベントである第32回東京国際映画祭の日程が異なるため、海外から両会場へお越しの参加者向けに、最新の日本文化に触れることのできる魅力的なスペシャルツアーを案内、滞在の充実度を図った。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

▶第32回東京国際映画祭

日本で唯一の国際映画製作者連盟公認の国際映画祭である東京国際映画祭と本年も共催。TIFFCOMとの連携により、東京から世界の映画産業へ向けて新たな交流の場を提供し、国際共同製作や国際ビジネスに結び付けている。

またTIFFCOM会場では第32回東京国際映画祭に先駆け、公式上映作品の業界関係者向け試写（TIFF Industry Screening）を開催、国内外への広報・販売を促進した。

東京国際アニメ祭2019（Tokyo International Anime Festival2019（TIAF2019））/ Japan Content Showcase 2019

Tokyo International Anime Festival

会　期：2019年10月22日（火）～24日（木）＜TIFFCOM TIAF2019＞
会　場：サンシャインシティ コンベンションセンター
　　〒170-0013　東京都豊島区東池袋3-1
主　催：経済産業省／（特非）映像産業振興機構／（公財）ユニジャパン／
　　（一財）音楽産業・文化振興財団／（一社）日本動画協会
共　催：第32回東京国際映画祭
後　援：総務省／外務省／観光庁／豊島区／（一社）映画産業団体連合会／
　　（一社）衛星放送協会／（一社）外国映画輸入配給協会／
　　国際交流基金アジアセンター／（一社）コンサートプロモーターズ協会／
　　（一社）コンピュータエンターテインメント協会／
　　（一社）私的録音補償金管理協会／（一財）デジタルコンテンツ協会／
　　（協組）日本映画製作者協会／（一社）日本映画製作者連盟／
　　（一社）日本映像ソフト協会／（一社）日本音楽事業者協会／
　　（一社）日本音楽出版社協会／（一社）日本音楽制作者連盟／
　　（一社）日本音楽著作権協会／（一社）日本経済団体連合会／
　　（公社）日本芸能実演家団体協議会／㈱日本貿易振興機構／
　　（一社）日本民間放送連盟／（一社）日本レコード協会
対　象：映画、テレビ、アニメーション、音楽、出版、キャラクター、ゲーム、モバイル／インターネット、ホーム・エンターテイメント（VOD、DVD、Blu-ray）、イベント／コンサート などのコンテンツホルダー様および関連団体・企業
公式サイト：https://www.jcs.tokyo/ja/（日本語サイト）
　　https://www.jcs.tokyo/en/（英語サイト）

総来場者数：16,217人
ビジネスエリアの来場者数：16,217人
出展社数：405社
出展参加国と地域数：56の国と地域
バイヤー数：948人

■開催内容

アニメの国際見本市を開催し、国際取引等を促進した。各社話題のTVシリーズや最新劇場公開等のアニメ作品を国内外に広く発信するため、BtoBの商談会を行うとともに、世界的に人気の高い日本のアニメ、コミック、小説等の海外展開に向けたピッチセッションの運営や、リメイクのための「原作ピッチ」を実施した。

また、イタリアセミナーにて来場のコンテンツ・プロデューサー等に対するプレゼンテーションへの協力や、アニメの国際共同製作を推進するための協力展開を行うと共に、日本のアニメーションビジネスに関わる関係者や、異業種の方々のお問合わせ、複雑に思われやすい様々なアニメビジネスに関する相談など、各種お問い合わせ、ご相談に対応するアニメビジネスコンシェルジュコーナーを設置した。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

・アニメビジネスコンシェルジュ
　日本のアニメーションビジネスに関わる関係者や、異業種の方々のお問合わせ、複雑に思われやすい様々なアニメビジネスに関する相談など、各種お問い合わせ、ご相談に対応するアニメビジネスコンシェルジュコーナーを設置

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

＜ユニジャパン主催／TIAF協力＞
・イタリアセミナー
　登壇者手配、セミナーの周知活動、フォローアップ等
・イタリア出展社マッチング
　アニメ制作会社への周知活動、フォローアップ等
※詳細はユニジャパンにお問合せください。











第16回東京国際ミュージック・マーケット（16th TIMM）/ Japan Content Showcase 2019











会　期：2019年10月28日（月）～30日（水）
会　場：［セミナー／個別商談会］渋谷エクセルホテル東急（10/28、29）
［ショーケースライブ］TSUTAYA O-EAST（10/29、30）、
Veats Shibuya（10/28、29）
［Music × Tech Showcase］渋谷DESEO/DESEO mini（10/29）
［ビジネスマッチング］渋谷エクセルホテル東急（10/28～30）
ジェトロ本部（10/30）
主　催：Japan Content Showcase 2019として―
経済産業省（METI）／（特非）映像産業振興機構／
（公財）ユニジャパン（UNIJAPAN）／
（一財）日本音楽産業・文化振興財団（JMCE）／（一社）日本動画協会（AJA）
共　催：JCS2019に準じる
後　援：JCS2019に準じる
対　象：国内外の音楽関係者
公式サイト：https://www.timm.go.jp

総来場者数：5,122人
ビジネスエリアの来場者数：2,982人
出展社数：32社（国内出展社数：25社　海外出展社数：7社）
出展参加国と地域数：6の国と地域
バイヤー数：169人（国内バイヤー：0人　海外バイヤー：169人）
※昨対比53% UP
商談件数：522件　※昨対比11% UP

■開催内容

「Japan Content Showcase 2019」の音楽部門のマーケットとして、日本音楽の海外展開を支援するイベント「第16回東京国際ミュージック・マーケット（16th TIMM）」を開催した。

前年に続き渋谷で実施し、例年通り日本音楽に関する出展社・海外バイヤー（音楽フェス・イベント主催者や配信事業者、レーベル関係者など）を中心に来場者を募り、「商談会」「ビジネスセミナー」「ショーケースライブ」を柱に3日間行われた。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

○海外バイヤーの増加：ドイツやオーストラリアからデレゲーショングループの誘致を行ったことからバイヤー数が増加、26ヵ国・地域から169名の海外バイヤーが来場した。
○中国にフォーカスしたコンテンツ提供：2016年度以降継続し今年も中国をターゲットエリアとして設定。中国にフォーカスしたセミナーの実施、音楽フェスの主催者やDSP等のバイヤー招聘、出展による紹介、プレゼンテーションステージの中国スピーカー登壇等を行った。
○台湾でのソングライティングキャンプの実施：㈱MCIPホールディングスと共同で台湾にてソングライティングキャンプ（日台クリエイター同士による楽曲制作）を2019年9月に実施し、その結果発表会を16th TIMMにて行った。
○海外バイヤーによるプレゼン実施：昨年に引き続き海外バイヤーによるプレゼンテーションを実施し、6ヵ国・地域の9名が登壇し事業内容の説明や自国のビジネス慣習などに関するプレゼン・ワークショップを行った。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

○音楽とテクノロジーをテーマとしたライブイベントの実施：「TECHS. 2019 in TIMM」と題したスペシャルイベントを開催し、先進技術を駆使したステージやAIによるパフォーマンスを実施した。
○他団体との連携セミナー実施：㈱MCIPホールディングス、（一社）コンサートプロモーターズ協会、（一社）Independent Music Coalition Japan（IMCJ）・Worldwide Independent Network（WIN）と共催しそれぞれ3本のビジネスセミナーを開催した。
○国内外で開催される音楽マーケットとの連携・参加：国内外で開催された以下の

第16回東京国際ミュージック・マーケット（16th TIMM）/ Japan Content Showcase 2019

音楽マーケットやイベントに参加、もしくはアーティスト交換等を行いTIMMの情報発信を行った。
日本・東京「AnimeJapan」、「Project Anime」／日本・沖縄「Trans Asia Music Meeting2019」／中国・成都「Sound of the Xity」／中国・蘇州「Midi Festival」／台湾・台北「Golden Melody Awards & Festival」／フランス・カンヌ「MIDEM」／韓国・ソウル「MU:CON」、「Zandari Festa」／香港「Hong Kong Asian-Pop Music Festival 2019」



第32回東京国際映画祭











会　期：2019年10月28日（月）～11月5日（火）
会　場：TOHOシネマズ六本木ヒルズ、EXシアター六本木など
主　催：ユニジャパン
共　催：経済産業省（TIFFプラス）／
国際交流基金アジアセンター（アジア映画交流事業）／
東京都（コンペティション部門、ユース部門）
後　援：総務省／外務省／観光庁／港区／㈱日本貿易振興機構／
国立映画アーカイブ／（公財）港区スポーツふれあい文化健康財団／
（一社）日本経済団体連合会／東京商工会議所／
（一社）日本映画製作者連盟／（一社）映画産業団体連合会／
（一社）外国映画輸入配給協会／
モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）／
全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／
（特非）映像産業振興機構／（一社）日本映像ソフト協会／
（公財）角川文化振興財団／（一財）デジタルコンテンツ協会／
（一社）デジタルメディア協会
支　援：文化庁
公式サイト：https://2019.tiff-jp.net/

総来場者数：213,383人
出展参加国と地域数：42の国と地域
プレス社数：706社（国内プレス社数：418社　海外プレス社数：288社）

■開催内容

日本で唯一の国際映画製作者連盟公認の国際映画祭として、才能溢れる新人監督から熟練の監督までを対象に、世界中から厳選されたハイクオリティなプレミア作品を集結させて、メインとなる長編コンペティション部門など様々な部門で国内外に発信。映画上映以外に学生、プロフェッショナル、ビジネス来場者を対象とした貴重なセミナー、シンポジウムやワークショップなども開催し、フォーラムやマーケットとの連動を意識した参加交流型フェスティバルとして人と映画、ビジネスのリンケージを実現している。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

カンヌ国際映画祭での公式イベントになっている、映画界で活躍する女性に焦点を当てて、男女平等の実現に向けた取り組みを推進するためのプラットフォーム「Women in Motion」を東京国際映画祭で初めて実施。寺島しのぶさん、蜷川実花さん、スプツニ子!さんらによるパネルトークを実施。ジェンダー論が盛んな中で、今の日本映画界における男女比のデータなども公表し、各メディアでも取り上げられた。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

東京国際映画祭では、様々な文化とコラボレーションし、"東京国際映画祭にプラスする"特別企画、「TIFFプラス」を実施しており、本年度は、NTTドコモとの特別企画を「TIFFプラスTech」と称し、5G技術を使った最先端のバーチャルライブを体験できるイベントを実施。イベントでは、バーチャルアイドルとリアルな出演者および当日来場した参加者が高速3Dスキャンシステムを通して、最新のVR空間ライブシステム内で共演する「Virtual×Real×Techライブ　～featuring 直感×アルゴリズム♪～」を実施し、会場に設置された大型LEDスクリーンでの視聴に加え、没入感のあるVR-HMD視聴体験も提供した。東京国際映画祭に来ている取材陣を呼び込み、国内外に日本の新しいエンターテイメントをアピールできた。

AnimeJapan 2020　※開催中止

会　期：2020年3月21日（土）～24日（火）
　　［パブリックデイ］3月21日（土）・22日（日）
　　［ビジネスデイ］3月23日（月）・24日（火）
会　場：東京ビッグサイト（〒135-0063　東京都江東区有明3-11-1）
　　［パブリックデイ］西展示棟1-4ホール、南展示棟1-4ホール
　　［ビジネスデイ］会議棟1Fレセプションホール、6F会議室 他
主　催：（一社）アニメジャパン
協　賛：Fate/Grand Order／ゴジラ・ストア／dアニメストア／㈱SANKYO
後　援：経済産業省／（一社）日本動画協会／コミック出版社の会
対　象：一般来場者／国内・海外ビジネス来場者／招聘海外バイヤー／アニメ関連企業・団体ほか
公式サイト：https://www.anime-japan.jp

4-ii　コ・フェスタ2019オフィシャルイベント

コ・フェスタオフィシャルイベントは、コ・フェスタイベントのうち、国際性に富んだイベントで、その国際性及び規模等においてコア・イベントに準じ、コ・フェスタ実行委員会が承認したイベントである。本年度は 10 イベントが認定された。数々の最新技術と優れたコンテンツ作品が紹介され、人材交流においては海外とのネットワークを深めた。

1	KYOTO CMEX 2019
2	第22回文化庁メディア芸術祭受賞作品展
3	Rakuten Fashion Week TOKYO
4	CEATEC 2019
5	国際ドラマフェスティバル in Tokyo 2019（東京ドラマアウォード2019）
6	第46回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール
7	Tokyo Docs 2019
8	Inter BEE 2019
9	デジタルコンテンツ EXPO 2019
10	2019国際ロボット展

KYOTO CMEX 2019

KYOTO CMEX

1）全体概要

会　期：2019年6月～2020年1月
会　場：みやこめっせ（京都市勧業館）／京都国際マンガミュージアム／
　　京都文化博物館／東映京都撮影所／松竹撮影所／東映太秦映画村　他
テーマ：「京都発コンテンツの祭典～　京都が創る　新しい世界―先端コンテンツのクロスメディア」
主　催：KYOTO Cross Media Experience実行委員会
連　携：コ・フェスタ、京都学生祭典
対　象：国内外や京都のコンテンツ産業関係者、若手クリエーターやクリエーターを目指す学生など
参加者：139,297名

2）個別事業概要

クロスメディア

●レセプション

開催日：9月20日（金）
会　場：京都水族館
参加者：111名
内　容：コンテンツ産業に携わる国内外のトップランナーや若手クリエイター等の分野横断的な人材交流とネットワークを深める場としてレセプションを開催。当日のアトラクションでは水族館の給餌パフォーマンスが行われた。


レセプション

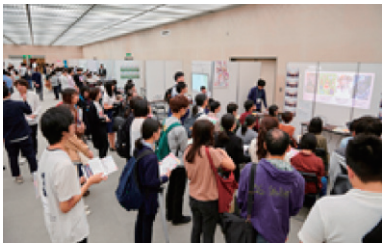
●コンテンツクロスメディアセミナー

開催日：11月12日（火）、1月26日（日）
会　場：ANAクラウンプラザホテル京都、京都国際マンガミュージアム
参加者：540名
内　容：業界で活躍するトップリーダーによるセミナーを開催し、コンテンツビジネスの可能性と未来像を探るとともに、人材育成とネットワークを深めることを目的に交流会を開催した。
　第１回　テーマ：『天気の子』―物語の起点―
　　講　師：新海 誠 氏（アニメーション監督）
　第２回　テーマ：サラリーマンから漫画家へ―マンガ制作術
　　講　師：弘兼 憲史 氏（漫画家）×三田 紀房 氏（漫画家）


コンテンツクロスメディアセミナー

●京都アニメ・ゲーム企業キャリアフォーラム

開催日：9月22日（日）
会　場：京都市勧業館（みやこめっせ）　※京まふ会場で実施
出展数：19企業
　（京都のアニメ制作会社：4社、ゲーム会社：12社、その他：3社）
参加者：510名
内　容：京都にスタジオ等を持つアニメ・ゲーム等の制作事業者を集めた就職説明会やキャリアセミナーを開催した。
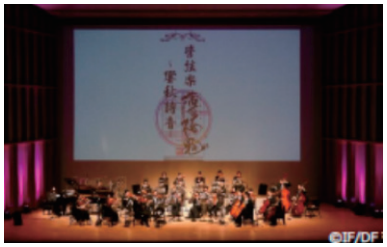

京都アニメ・ゲーム企業キャリアフォーラム

●コンテンツパッケージ授業

開催日：9月29日（土）～12月21日（土）
会　場：キャンパスプラザ京都、京都国際マンガミュージアム
内　容：コンテンツ分野に関する教育研究を推進している京都の諸大学が協力し、それぞれアート、デザイン、映画、マンガ、アニメ、ゲームの分野を分担してリレー講義することにより、京都から発展した日本の表現文化、映像文化を総合的に理解し、現状と展望を考える講義を実施した。

KYOTO CMEX 2019

KYOTO CMEX



薄桜鬼オーケストラコンサート


アニメ祭 GO-TAN in 丹後王国「食のみやこ」


アニメプロジェクト GO-TAN！ トークショー


キッズ・シネマスタジオ


太秦上洛まつり

●薄桜鬼オーケストラコンサート

管弦楽薄桜鬼～響秋詩音～
開催日：9月21日（土）　18:00開演
会　場：ロームシアター京都メインホール
来館者：1,100名
音楽監督：深澤恵梨香
ゲスト：三木眞一郎、桑島法子
内　容：多くの女性ファンに支持されている薄桜鬼のキャストとオーケストラのコラボレーションコンサートを開催した。

●アニメプロジェクトGO-TAN！

開催日：5月19日（日）～11月23日（土）
参加者：1,300名
内　容：コスプレパフォーマンス、痛車展示、トークショーなどのイベントを開催し、新産業・新しい観光（着地型観光・もてなしの観光）の創出を図った。

□アニメ祭GO-TAN in 丹後王国「食のみやこ」
開催日：5月19日（日）、8月4日（日）、11月3日（日）
会　場：道の駅丹後王国「食のみやこ」
内　容：府内の学生と連携し、コスプレパフォーマンス・痛車展示、音楽ライブを実施。

□トークショー
開催日：7月13日（土）、11月23日（土）
会　場：みやづ歴史の館
内　容：両日とも2部構成のトークショー。第1部では声優・プロデューサーによるアニメ製作の現場、仕事の内容やアニメの魅力について紹介し、第2部では漫画家・編集者に漫画業界の裏話や作品が仕上がるまでに編集者がどう関わるかについて講演を行った。
ゲスト：中村繪里子（声優）、麻宮騎亜（漫画家）、森功至（声優）、藤島康介（漫画家）、郡司幹雄（㈱プロダクションアイジー）、吉田昌平（㈱講談社）

●京都太秦シネマフェスティバル

開催日：10月19日（土）、11月16日（土）・17日（日）
会　場：東映太秦映画村
参加者：8,119名
内　容：「映画のまち 京都太秦」で、プロ指導による子ども映画制作ワークショップ、歴史創作コンテンツファンが集い交流するイベントを開催し、太秦を基盤とした「コンテンツコミュニティ」の形成を図った。

□キッズ・シネマスタジオ
開催日：10月19日（土）
内　容：撮影所の本物の設備を使って、プロの映画監督・撮影所スタッフの指導により、子どもたちが楽しい映画作りを体験し、映画作りの魅力や関心を高めた。
作　品：「忍者で・ヨサコイ」

□太秦上洛まつり
開催日：11月16日（土）・17日（日）
内　容：侍（SAMURAI）をテーマに、人気アニメとのコラボや、トークイベント、参加型で楽しむコスプレイベントに加え、eスポーツの世界大会の出場権をかけた予選大会などを実施し、歴史創作コンテンツのクロスメディア発信拠点としての京都・太秦をPRした。

KYOTO CMEX 2019

KYOTO CMEX

映画・映像

●HISTORICA（ヒストリカ）

開催日：10月26日（土）～11月4日（月・祝）
会　場：京都文化博物館
参加者：2,587名
内　容：京都ヒストリカ国際映画祭、通称「HISTORICA」・「KHIFF」は、ジャンル映画祭として世界でただひとつ「歴史」をテーマにした国際映画祭です。また、国内外から若手フィルムメーカーを募集し、合宿形式で撮影所で短編時代劇を制作するワークショップ「京都フィルムメーカーズラボ」や、時代劇の企画ピッチングプロジェクト「企画市」など、“時代劇・歴史劇”をテーマに国際的な交流のハブとなることを目指して実施した。

※詳細はパートナーイベント「第11回京都ヒストリカ国際映画祭」を参照のこと。

●京都フィルムメーカーズラボ

開催日：10月30日（水）～11月4日（月・祝）
会　場：松竹撮影所、東映京都撮影所、京都文化博物館
参加者：852名
内　容：松竹撮影所、東映京都撮影所のオープンセットにおいて、美術、照明、衣裳など本編映画と同じ施設・道具を使用し、本格的時代劇を体験するワークショップを開催。対象は国内・海外の若手映画製作者で、62の国と地域から334人が応募（日本人13人、外国人321人）し、選ばれた38名が合格、うち20人が短編時代劇作品を製作した。
また、「マスターズセッション」においては、ヒストリカ映画祭・東京国際映画祭に参加する多彩なゲストを講師として招き、交流の場を設けた。

□ゲスト（マスターズセッション）
アミール・ナデリ［映画監督］、國實瑞惠［プロデューサー］、エリック・ニアリ［プロデューサー］、ヴァレンティーナ・ヴェッローモ［ビエンナーレ・カレッジ・シネマ責任者］、エレナ・ポラッキ［ヴェネチア映画祭プログラマー］、ピムパカー・トーウィラ［監督／プログラムディレクター］、イヴァン・ジェルゴレット［監督］、セドリック・イド［監督、俳優］

●京都映画企画市

□映画企画コンテスト
開催日：11月4日（月・祝）
会　場：京都みなみ会館
参加者：46名
内　容：若手映画・映像製作者（監督、プロデューサー等）を対象とした時代劇企画コンテストを行い、時代劇の拠点としての京都の優位性を活かした映画・映像や若手クリエーターが世に出ていく仕組みを構築することを目的として実施した。
企画数：5企画（プレゼンテーション審査）
優秀賞作品企画：『酢と油』［熊谷まどか氏（監督）］
＜評価者＞（順不同）
掛尾 良夫 氏（城西国際大学メディア学部招聘教授・学部長）
三島 有紀子 氏（映画監督）
井上 文雄 氏（プロデューサー）



HISTORICA


HISTORICA


京都フィルムメーカーズラボ


京都フィルムメーカーズラボ



京都映画企画市　映画企画コンテスト


京都映画企画市　映画企画コンテスト

KYOTO CMEX 2019

KYOTO CMEX


京都映画企画市　映画企画相談会


京都映画企画市　優秀映画企画完成披露上映会


京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）


京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）


マンガ・アニメイベント


マンガ出張編集部

□映画企画相談会
開催日：11月3日（日）
会　場：京都文化博物館
参加者：10名（プレゼン5名と応募者で評価採点上位5名）
内　容：第一線で活躍するプロデューサーによる企画指導を実施した。
＜指導プロデューサー＞（順不同）
西ヶ谷 寿一 氏（東京テアトル㈱　映像事業部 企画調整部プロデューサー）
井上 文雄 氏（プロデューサー）
久保田 傑 氏（㈱オフィスシロウズ　プロデューサー）

□優秀映画企画完成披露上映会
開催日：11月3日（日）
会　場：京都文化博物館
参加者：57名
内　容：2018年度優秀映画企画『夏の踊り子』の受賞作品完成披露上映の後、白川政彦氏と廣原暁監督の登壇ほか、優秀映画企画の国際映画祭への展開についてトークイベントを実施した。

マンガ・アニメ

●京都国際マンガ・アニメフェア【略称：京まふ】
開催日：9月21日（土）・22日（日）
会　場：京都市勧業館（みやこめっせ）等
参加者：47,160名
内　容：関西圏企業と首都圏を結ぶビジネスマッチングの場の創出、関西で優秀な若手クリエイターが育つための市場づくり、マンガ・アニメファン及び外国人も含めた観光客の新たな層の掘り起こしなど、関西圏のコンテンツ市場の振興を図るため、西日本最大規模のマンガ・アニメの総合見本市を開催した。令和初開催となった今年度は、市内の開催機運醸成と認知度向上を図るため、「東映太秦映画村」を特別会場とし、「京まふ」との一体的なプロモーションを実施するとともに、「京まふ」を応援いただける企業・団体の方々を「京まふ応援サポーター」として認定し、事前告知等に協力いただいた。また、7月上旬にフランス・パリ郊外で開催される日本文化の総合博覧会「Japan EXPO」にて本フェアのPRを実施した。

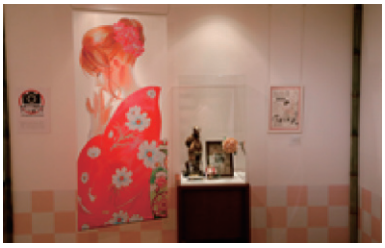
●マンガ・アニメイベント
開催日：9月21日（土）・22日（日）
会　場：京都市勧業館（みやこめっせ）、ロームシアター京都　他
※京まふ会場で実施
参加者：18,914名
内　容：人気声優等を招聘したステージイベント等のマンガ・アニメ関連イベントを実施した。

●マンガ出張編集部
開催日：9月21日（土）
会　場：京都市勧業館（みやこめっせ）　※京まふ会場で実施
出展数：53編集部・団体
参加者：225名
内　容：首都圏を中心とした出版社のマンガ編集部を招き、マンガ家志望者が原稿を持ち込んで添削やアドバイスを受けられる場を創出した。

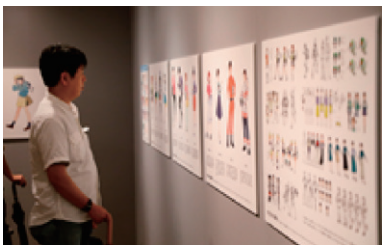
KYOTO CMEX 2019

KYOTO CMEX

●京都国際マンガミュージアムイベント
「ちはやふるの世界～末次由紀原画展～ おこしやす京都篇」
開催日：9月21日（土）～12月22日（日）
会　場：京都国際マンガミュージアム
来館者：66,818名（期間中のミュージアム入館者数）
内　容：生原稿の展示コーナーでは手描きのネームノートを展示し、原画展独占公開のアトリエ再現コーナー、本展キービジュアルの制作過程を収めた映像の放映など、多彩な展示を通じて、末次由紀氏の創造の世界を体感していただける展覧会を開催した。


ちはやふるの世界～末次由紀原画展～ おこしやす京都篇

「イラストレーター・賀茂川－イロドラレルモノタチ－展」
開催日：9月21日（土）～11月24日（日）
会　場：京都国際マンガミュージアム
来館者：53,639名（期間中のミュージアム入館者数）
内　容：京都市交通局の「地下鉄に乗るっ」プロジェクトなどのキャラクターデザインで知られるイラストレーター賀茂川氏の作品展を開催した。


イラストレーター・賀茂川 - イロドラレルモノタチ - 展

ゲーム

●BitSummit 7 spirits
開催日：6月1日（土）・2日（日）
会　場：京都市勧業館（みやこめっせ）
参加者：17,038名
内　容：日本のインディーゲームを京都から世界へと発信することを目的に開催。世界中から100を超えるインディーゲーム開発チームがブース出展したほか、ゲームクリエイター等による講演やパネルディスカッションを実施した。



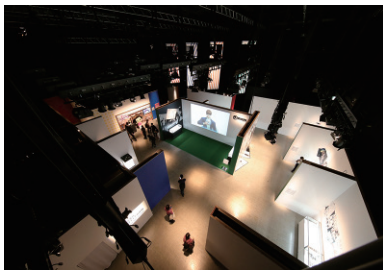
BitSummit 7 spirits

●京都eスポーツサミット2020 Winter
開催日：2020年1月12日（土）
会　場：京都産業会館ホール
参加者：170名
内　容：内外で注目を集めるeスポーツを契機とした府内ゲーム関連企業の活性化を目的に、第2回を開催。前回は、地域活性化や障害者スポーツなど様々な視点からeスポーツについて意見交換を行ったが、今回はクリエイターに焦点を絞った企画とし、プロゲーマーを審査員に迎え、eスポーツを念頭に置いた国内唯一のゲーム賞「京都eスポーツゲーム大賞」をBitSummitと連携し、実施することを発表した。


京都 e スポーツサミット 2020 Winter

第22回文化庁メディア芸術祭受賞作品展











会　期：2019年6月1日（土）～16日（日）
会　場：日本科学未来館／フジテレビ湾岸スタジオ／東京国際交流館／
　　BMW GROUP Tokyo Bay／シンボルプロムナード公園　ほか
主　催：第22回文化庁メディア芸術祭実行委員会
共　催：東京都港湾局／（一社）東京臨海副都心まちづくり協議会
協　力：日本科学未来館／日本学生支援機構 東京国際交流館／
　　ビー・エム・ダブリュー㈱／東京港埠頭㈱
対　象：一般
公式サイト：http://festival.j-mediaarts.jp

総来場者数：30,909人

■開催内容

1997年に第一回を開催して以来、高い芸術性と創造性を持つ優れたメディア芸術作品を顕彰するとともに、これを鑑賞する機会を通じて、メディア芸術の創造と発展を図り、日本文化の向上と振興を目的として開催されてきた「文化庁メディア芸術祭」。本年は、お台場エリアにある様々な施設を幅広く活用し、フェスティバル感あふれるイベントとなった。各会場では、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門に応募された4,384作品の中から選ばれた全受賞作品と、功労賞受賞者の功績等の紹介をはじめ、様々な関連イベントを実施、期間中はお台場一帯がアートの街へと変身した。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

ー初のお台場開催であり、展示会場となった日本科学未来館・フジテレビ湾岸スタジオを中心に、複数施設で関連イベントを実施することで、お台場一帯でフェスティバル感を醸成した。
ーメディア芸術祭のフェスティバルプラットホーム化を目指し、国内のメディア芸術関連フェスティバルとの連携を開始した。
ー従来は冊子体で発行していた受賞作品集を、電子書籍の形態で発行し、アクセシビリティを向上させた。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

様々なアーティストやイベントとコラボレーションをし、常設展示以外のイベント等を実施した。
実施イベント数　85件
内訳：ライブパフォーマンス5件、トーク6件、デモンストレーション7件、ギャラリートーク8件、アワードカンファレンス23件、上映付トーク1件、シンポジウム5件、ワークショップ7件、鑑賞プログラム14件、上映9件

（実施例）
①アワードカンファレンス（アート部門）
　キーノート　『特異点を超えて、ふたたび』
　セッション1「多様な表現分野からメディアアートへの転換」
　セッション2「狂気性を孕んだアートはどこへ?」
　日　時：2019年6月1日（土）　11:00～12:50
　会　場：日本科学未来館7階　未来館ホール
　キーノート：森山 朋絵／アート部門審査委員、メディアアートキュレーター、東京都現代美術館学芸員
　受賞者：古舘　健／アート部門大賞『Pulses/Grains/Phase/Moiré』
　　石橋　素／アート部門優秀賞『discrete　figures』
　　菅野　創／アート部門優秀賞『Lasermice』
　モデレーター：阿部 一直／アート部門審査委員、キュレーター、アートプロデューサー、東京工芸大学教授
　　池上 高志／アート部門審査委員、複雑系科学研究者、東京大学大学院総合文化研究科教授
　　伊村 靖子／アート部門選考委員、情報科学芸術大学院大学講師

第22回文化庁メディア芸術祭受賞作品展

ゲスト：福原 志保／アーティスト
内　容：（キーノート）　第22回文化庁メディア芸術祭アート部門の選考・メディア芸術祭の歴史について
（セッション1）表現分野の現状と次の可能性、多様性、受賞作品とその背景について
（セッション2）ゲストの福原志保さんの活動に触れながらの、狂気性を孕んだアートについて
受賞作品3作に共通する「制御の先にある非制御について」の考えや、展示会場の変更に伴う展示の魅せ方、メディアアートの定義についても質疑応答を行いながら展開した。
参加者：104名

②Japan Media Arts Festival × MUTEK.JP
DAY:1【 Art & The Intelligent Machine 】
– Panel – [Curating Machines]
日　時：2019年6月1日（土）　16:00〜17:00
会　場：日本科学未来館7階　イノベーションホール
内　容：「Curating Machines」をテーマにしたパネルディスカッション　※英語にて実施
参加者：188名（DAY1 全パフォーマンスの合計）

③Japan Media Arts Festival × 東京2020 NIPPONフェスティバル
トーク＋パフォーマンス「日本の文化の新たな可能性を考える。東京2020 NIPPONフェスティバル」
日　時：2019年6月1日（土）　14:30〜15:30
会　場：東京国際交流館3階　国際交流会議場
出演者：青柳 正規／東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 文化・教育委員会 委員長
野老 朝雄／アーティスト・東京2020大会エンブレムおよびフェスティバルマーク制作者
松川 昌平／慶應義塾大学SFC 情報環境学部 准教授
林　英哲／太鼓奏者 作曲・演出家 英哲風雲の会主宰・芸術監督
M　C：山口 慶子／コンセプト映像プロデューサー
内　容：「伝統と革新の融合」をテーマにしたトーク、太鼓奏者・林英哲氏によるライブパフォーマンス
参加者：50名

④ラジオおよびテレビでのメディア芸術祭の情報告知、関係者の出演を行い、広い世代にイベント内容をPRした。
◆放送局：TOKYO FM
番組名：「TOKYO SOUNDS GOOD」
放送日時：5月31日（金）　14:00〜16:55（約10分のコーナー出演）
出　演：文化庁文化戦略官　所 昌弘 氏
第22回文化庁メディア芸術祭フェスティバル・アドバイザー／エンターテインメント部門審査委員　齋藤 精一 氏

◆放送局：J-WAVE
番組名：「J-wave INNOVATION WORLD」
放送日時：5月31日（金）　20:00〜22:00（約15分のコーナー出演）
出　演：第22回メディア芸術祭アンバサダー　新川 優愛

Rakuten Fashion Week TOKYO 2020 S/S


© Japan Fashion Week Organization


© Japan Fashion Week Organization


© Japan Fashion Week Organization


© Japan Fashion Week Organization


© Japan Fashion Week Organization



© Japan Fashion Week Organization

会　期：2019年10月14日（月・祝）～20日（日）
会　場：渋谷ヒカリエ・表参道ヒルズ.
主　催：（一社）日本ファッション・ウィーク推進機構
後　援：経済産業省／外務省／知的財産戦略本部／㈱日本貿易振興機構／
㈱中小企業基盤整備機構／東京都／
（一社）日本経済団体連合会／日本商工会議所／東京商工会議所／
（一財）日本ファッション協会／（一社）日本アパレル・ファッション産業協会／
（一財）ファッション産業人材育成機構／（一社）日本百貨店協会／
渋谷区／渋谷区商店会連合会／日本ジーンズ協議会
公式サイト：https://rakutenfashionweektokyo.com/jp/

総来場者数：17,890人

■開催内容

“ファッション・ウィーク”とは、年2回、世界のファッション都市で開催されているファッションの祭典で、ファッション・ショーや展示会で発表される最新コレクションから、次のシーズンのトレンドが生まれています。

世界のファッション・ウィークの中でも、歴史性、話題性から情報発信力が大きい、パリ、ミラノ、ロンドン、ニューヨーク、そして東京の5都市で行われるものは、「5大ファッション・ウィーク」と総称され、大きな影響力を持っています。

東京のファッション・ウィークが「Rakuten Fashion Week TOKYO（楽天ファッション・ウィーク東京）」です。
（一社）日本ファッション・ウィーク推進機構（JFWO）が主催し、毎年3月と10月に開催しています。

渋谷ヒカリエと表参道ヒルズという2つの拠点、そして東京各所から、世界で注目される最新の日本のクリエーションを発信していきます。

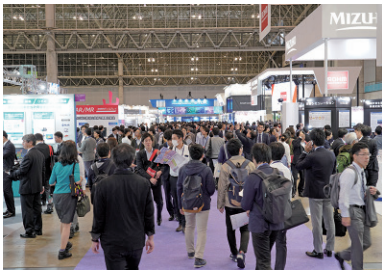
CEATEC 2019（シーテック 2019）

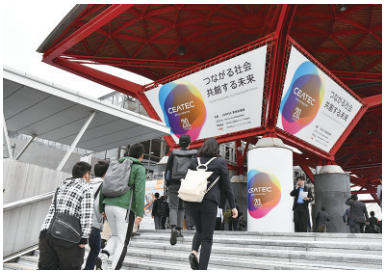
CEATEC
CPS/IoT EXHIBITION

会　期：2019年 10月15日（火）～18日（金）
会　場：幕張メッセ
主　催：CEATEC 実施協議会
　　（一社）電子情報技術産業協会（JEITA）／
　　（一社）情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）／
　　（一社）コンピュータソフトウェア協会（CSAJ）
後　援：総務省／外務省／厚生労働省／経済産業省／国土交通省（建制順）
　　金融庁
　　㈱日本貿易振興機構／（国研）新エネルギー・産業技術総合開発機構／
　　（国研）産業技術総合研究所／（国研）情報通信研究機構／
　　㈱情報処理推進機構／㈱中小企業基盤整備機構／日本政府観光局／
　　千葉県／千葉市／NHK／（一社）日本民間放送連盟／
　　（一社）日本経済団体連合会／日本商工会議所／東京商工会議所／
　　千葉商工会議所／米国大使館 商務部／駐日欧州連合 代表部／
　　駐日英国大使館／フランス大使館 貿易投資庁ービジネスフランス／
　　ドイツ大使館／在日スイス大使館（順不同）
対　象：IT/エレクトロニクスビジネスユーザーおよび関連コンシューマ層、他
公式サイト：https://www.ceatec.com

総来場者数：144,491人（国内入場者数：117,938人　海外入場者数：2,069人）
出展社数：787社（国内出展社数：537社　海外出展社数：250社）
　　「前回対比8.6%UP」
出展参加国と地域数：24の国と地域
プレス人数：1,042人











■開催内容

20回目の開催となる本年は、「つながる社会、共創する未来」を開催テーマに掲げ、未来社会のデザインを広く発信した。開催前日の10月14日（月）には、プレスブリーフィングを実施し展示会概要等の説明を行い、続いて、メディアコンベンションを実施し、CEATECに関する情報が連日国内外のオンラインニュース、テレビ、新聞等で発信された。

開催初日には、20周年を祝し記念セレモニーが行われ遠藤信博会長による挨拶のほか、これまでの20年の歩みとCEATECに20年連続でご出展頂いている企業/団体を紹介、表彰した。また、同日開催したCEATEC 2019オープニングレセプションでは官公庁関係者、各社経営幹部などが参加し、CEATEC 2019の成功に向けて業界全体が一丸となって取り組む姿勢を見せるとともに、参加者同士が懇親した。

基調講演である「CEATEC KEYNOTE/SUMMIT」は会期4日間にわたって1,000名規模の会場にて連日開催され、各産業界をリードする企業経営者が登壇する「CEATEC KEYNOTE」に加え5GやAIなどをテーマにパネルディスカッションを実施した、「CEATEC SUMMIT」など、多数のトップリーダーが登壇した。

展示会場は2-8ホールで「トータルソリューション」、「スマートX（スマートファクトリー、スマートライフ・モビリティ等）」、「デバイス＆テクノロジー」、「Society 5.0 TOWN」、「Co-Creation PARK」、「学生交流ラウンジ」の6エリアを展開した。

「CEATEC 2020」は、2020年10月20日（火）から23日（金）の4日間、幕張メッセで開催予定である。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

- 幕張新都心の公道における自動運転の実証実験
- CEATEC公式アプリをリリース
- CEATECを業界のオープンキャンパスとして展開する「学生交流ラウンジ」の設置と学生向けイベントの開催
- Plug and Play Japanと連携し、CEATEC Startup Pitch Contestを開催
- 会場から近郊駅までの区間を走行する乗合タクシーを公式アプリで予約・決済できるサービス（イベントMaaS）を実施

国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2019
（東京ドラマアウォード2019）











会　期：2019年10月28日（月）・29日（火）
会　場：東京プリンスホテル（東京ドラマアウォード2019授賞式）／
　　千代田放送会館（シンポジウム）
主　催：国際ドラマフェスティバル in TOKYO 実行委員会
　　（構成団体）
　　日本民間放送連盟／TBSテレビ／日本テレビ放送網／テレビ朝日／
　　フジテレビジョン／テレビ東京／WOWOW／日本放送協会／
　　スカパーJSAT／日本映画製作者連盟／松竹／東宝／東映／KADOKAWA
　　／日本音楽事業者協会／実演家著作権隣接センター／
　　全日本テレビ番組制作者連盟／映像産業振興機構／
　　日本映画テレビプロデューサー協会
協　賛：電通／博報堂
共　催：総務省
後　援：経済産業省
対　象：業界関係者／バイヤー
公式サイト：https://j-ba.or.jp/drafes/

総来場者数：授賞式800人　シンポジウム200人
プレス社数：80社

■開催内容

■「東京ドラマアウォード2019」授賞式

・司会：石坂浩二・杉野真実（日本テレビアナウンサー）
・ゲスト：菅田将暉、清原果耶、横浜流星、黒木華、milet、佐藤浩市、杉田雷麟、貫地谷しほり、駿河太郎ほか

●受賞作品

作品賞＜連続ドラマ部門＞

グランプリ	『3年A組ー今から皆さんは、人質ですー』 日本テレビ放送網
優秀賞	『透明なゆりかご』 NHK
優秀賞	『dele』 テレビ朝日
優秀賞	『大恋愛〜僕を忘れる君と』 TBSテレビ
優秀賞	『きのう何食べた?』 テレビ東京

作品賞＜単発ドラマ部門＞

グランプリ	『Aではない君と』 テレビ東京
優秀賞	『詐欺の子』 NHK
優秀賞	『満願』 NHK
優秀賞	『レ・ミゼラブル 終わりなき旅路』 フジテレビジョン
ローカル・ドラマ賞	『かんざらしに恋して』 NHK長崎放送局
ローカル・ドラマ賞	『なめとんか やしきたかじん誕生物語』 関西テレビ放送
海外作品特別賞	『我的真朋友〜My True Friend〜』 中国
海外作品特別賞	『熱血司祭』 韓国
海外作品特別賞	『愛の運命』 タイ

■「東京ドラマアウォード」シンポジウム

●ここから始まる“新しい”テレビドラマ〜それぞれの戦い編〜

・登壇者：大石静、尾崎将也、古沢良太、川上剛、並木道子
・モデレーター：中町綾子（日本大学教授）
・参加者：各局ドラマプロデューサー

第46回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール

JAPAN PRIZE

会　期：2019年11月1日（金）～8日（金）
会　場：NHK放送センター（東京・渋谷）／渋谷キャスト／JICA地球ひろば
主　催：NHK
対　象：国内外の教育コンテンツ制作者および教育関係者、一般
公式サイト：http://www.nhk.or.jp/jp-prize

総来場者数：943人
出展参加国と地域数：54の国と地域

■開催内容

「日本賞」は教育コンテンツの質の向上と国際理解の促進を目的として1965年にNHKが創設した国際コンクール。46回目となる今回は世界の54の国と地域から288の作品と企画が寄せられ、一次審査を通過した作品を、世界12カ国から集まった国際審査委員12人が最終審査を行った。

「令和」の時代を迎えて初めての授賞式では、皇嗣妃殿下にお言葉をいただき、「グランプリ日本賞」ほか受賞作品が発表され8日間の会期を終了した。グランプリ日本賞は、アフリカ各地で仏教思想を広める児童養護施設が開設されている現実と、そこで学ぶ若者たちの葛藤を描いたドキュメンタリー「アフリカのブッダ」が受賞した。人種・他国からの支配、そして文化について難しい問いを浮かびあがらせながら、ひとりのティーンエージャーの挑戦とアイデンティティーを綴っている。授賞式では、つるの剛士さんが司会をつとめた。Foorinと病気や障害のある子どもたちで結成された「Foorin楽団」が、＜NHK＞2020応援ソング「パプリカ」で感動的なパフォーマンスを披露した。

また、授賞式の模様と受賞作品は「まるごと見せます！世界の教育コンテンツ～日本賞2019～」（NHKEテレ）として、2019年12月28日に放送された。
授賞式司会進行：つるの剛士（俳優）
赤木野々花（NHKアナウンサー）

1）応募数　288作品（コンテンツ作品249、新規企画39）
2）受賞作品
【コンテンツ作品各部門最優秀賞】
・幼児向け部門最優秀賞（総務大臣賞）
「ミュージックボックス　音をさがせ」（韓国）
・児童向け部門最優秀賞（文部科学大臣賞）
「世界の果てで潜ってミステリー　ザトウクジラの巻」（アルゼンチン）
・青少年向け部門最優秀賞（外務大臣賞）/ グランプリ日本賞
「アフリカのブッダ」（南アフリカ、スウェーデン）
・一般向け部門最優秀賞（東京都知事賞）
「ヒューマニティー4.0　不死は可能か」（韓国）
・デジタルメディア部門最優秀賞（経済産業大臣賞）
「ライク♡ミー」（ノルウェー）
【コンテンツ作品特別賞】
・国際交流基金理事長賞
「FACES　いじめをこえて」（日本）
・ユニセフ賞
「静かで、にぎやかな世界～手話で生きる子どもたち～」（日本）
【新規企画最優秀賞】（放送文化基金賞）
・「パムジとブヨ」（南アフリカ）
【新規企画優秀賞】（日本ユネスコ協会連盟賞）
・「アフリカに若い農家を」（ケニア）

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

・会期中の3日間は、NHK外の施設（渋谷キャスト、JICA地球ひろば）でイベントを実施。一般参加者を含むのべ700人近くの参加があった。アメリカPBSキッズのプロデューサーによる基調講演に始まり、2日目はSDGsやダイバーシティーなどをテーマに議論。3日目にはイタリア賞と日本賞の共同セッションを行った。あ



2019 受賞者


赤木野々花、つるの剛士



Foorin 楽団


PBSkids × NHK こども番組



セッション“ダイバーシティー”フォーカス

第46回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール

JAPAN PRIZE

わせて、各部門の優秀作の上映会を行い、世界各地のプロデューサーに登壇してもらった。
・期間中の参加者には、ファイナリスト作品をじっくり鑑賞できるように、期間限定でウェブストリーミングサービスを行った。
・授賞式をFacebookのNHK Worldアカウントでライブ配信した。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

2019年度は、コンクール本番期間とは別に、過去の受賞作品の上映会を4月～10月まで5回にわたって行った。NHK外のパートナーを得て、連携して実施することで、放送のみでは届けることのできなかったあらたな視聴者、参加者に世界の優れた教育コンテンツに触れてもらうことができた。

①4月22日（月）　六本木アカデミーヒルズ
②7月10日（水）　六本木アカデミーヒルズ
③9月18日（水）　六本木アカデミーヒルズ
④10月11日（金）　JICA地球ひろば
⑤10月19日（土）　第14回札幌国際短編映画祭

Tokyo Docs 2019

TokyoDocs

会　期：2019年11月4日（月・祝）～7日（木）
会　場：【メイン会場】JA共済ビル　カンファレンスホール
　　【上映会場】Nagatacho GRiD
主　催：（特非）Tokyo Docs／（一社）全日本テレビ番組製作社連盟（ATP）
後　援：総務省／経済産業省／東京都／日本放送協会（NHK）／
　　日本民間放送連盟（民放連）／放送文化基金／放送批評懇談会／
　　放送人の会／全国地域映像団体協議会（全映協）／
　　映像文化製作者連盟（映文連）
特別協力：ヤフー㈱
助　成：J-LOD／国際交流基金アジアセンター／（公財）放送文化基金／
　　公益信託高橋信三記念放送文化振興基金
対　象：放送関係者、一般、学生
公式サイト：http://tokyodocs.jp/

総来場者数：延べ1,290人（昨年1,220人）
企画／作品数：ピッチング企画20　カタログ企画9　Colors of Asia企画9
　　ショート作品8
参加国と地域数：25の国と地域
ゲスト数：ディシジョン・メーカー40人（国内8、海外33）
　　アジアフィルムメーカー28人
商談件数：300件（昨年290件）

■開催内容

Tokyo Docs 2019は、11月4日（月・祝）～7日（木）の期間で、千代田区平河町のJA共済ビル　カンファレンスホールにて下記の内容で開催した。

11/4：アジアデー

アジアと日本の製作者によるドキュメンタリー番組企画「Colors of Asia」を、国内外の放送局、配給会社に提案し、2020年の放送を目指すセッションをはじめ、2019年に完成、放送された作品の報告会を行った。夜にはメイン会場近くのNagatacho GRiD1Fで招聘ゲストと日本の製作者が参加して、オープニング・パーティーを開き、その後地下の上映会会場にてオープニング上映会を実施した。

11/5～6：ピッチング・セッション

2日間にわたり日本の番組企画を海外メディアに提案する「ピッチング・セッション」を行った。日本企画15本、海外企画5本合わせて20本が提案され、その後の個別ミーティングにて海外メディアとの商談を行った。このほか、5日には海外メディアが自身の放送枠について紹介する「ゲストに会おう at ハッピーアワー」、6日には国際共同製作を世界に展開させた経験を持つプロデューサーによるケーススタディを行い、一般来場者にとっても充実した内容のセッション開催が実現した。両日ともに夜にはTokyo Docsから生まれた作品の上映会を開催した。

11/7：ショート・ドキュメンタリー・ショーケース

最終日は、短編ドキュメンタリーの完成作品上映と、監督による作品紹介、今後の展開の発表を行った。発表後には、海外メディアとの個別ミーティングを行い、完成作品のさらなる展開に向けて交渉を重ねた。ワークショップでは、ショート・ドキュメンタリー制作における資金調達方法についてのケーススタディを行った。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

▼完成作品の上映を会期中に設けることにより、招聘海外メディア全員へプロモーションすることができた。
▼放送事業者だけでなく、Netflixや中国のTencent、bilibili、アメリカのVICEなどの配信事業者を招聘し、完成作品の販路を広げた。
▼日本コンテンツの評価：26名の国内外メディアより回答を得た。結果、提案企画の質92%（昨年比+18%）、完成短編作品の質84%（昨年比+65%）と格段に向上した。


受賞者集合写真


海外ゲスト


ピッチングの様子


個別ミーティングの様子


上映会の様子

Tokyo Docs 2019

TokyoDocs



ワークショップの様子

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

海外ドキュメンタリー祭とも連携を図り、下記賞の贈賞、ドキュメンタリーイベントへの製作者派遣を約束いただいた。

・AIDC（The Australian International Documentary Conference）への派遣
・Docedge Kolkata（インド）への派遣
・Fresh Pitch（中国）への派遣
・IDFA（International Documentary Film Festival Amsterdam）イベント参加支援

Inter BEE 2019／（第55回）2019年国際放送機器展

Broadmedia & Entertainment
Inter BEE 2019

会　期：2019年11月13日（水）～15日（金）
会　場：幕張メッセ
主　催：（一社）電子情報技術産業協会
後　援：総務省／経済産業省（建制順）
　　NHK／（一社）日本民間放送連盟（JBA）／（一社）電波産業会（ARIB）／
　　（一財）デジタルコンテンツ協会（DCAJ）／
　　（一社）放送サービス高度化推進協会（A-PAB）　※その他協力団体多数
対　象：メディアビジネス関係者、コンテンツ制作関係者、他
公式サイト：https://www.inter-bee.com

総来場者数：40,375人（国内：39,354人　海外：1,021人）
出展社数：1,158社　※過去最多（国内：526社　海外：632社）
出展参加国と地域数：37の国と地域　※日本を除く
プレス人数：342名（国内：335名　海外：7名）

■開催内容

●過去最多1,158社・団体が出展、2年連続4万名を超える来場者数を記録

今年で55回目を迎えたInter BEEは、「新たなメディアの可能性を世界に伝えよう。」をスローガンに掲げ、最新の映像・放送・通信・音響・照明、並びにメディアビジネスのイノベーションが一堂に会する「メディア総合イベント」として、展示・プレゼンテーション・体験イベントを通じ、近未来のメディアコミュニケーションとエンターテイメントの世界を披露した。

●進化し変革するスポーツコンテンツの最前線を発信

展示ホールでは、出展各社／団体より最新の取組みや映像制作セミナーなどが開催された。特に2019年は「スポーツ」をテーマとした展示などが充実し、特別展示企画においても「INTER BEE SPORT」を開催。展示ブース・出展者プレゼンテーション・ライブイベントなどが展開された。各セッションにおいても最高のスポーツコンテンツ、他産業との融合、Tokyo2020の映像制作と最新技術、Beyond2020など、国内外のキーパーソンによる多彩な講演内容に多くの聴講者が集まり、2020年とその先を見据えたスポーツコンテンツを軸とした映像制作の最前線が紹介された。

●IP、5G、AI、実用化が進む新技術と進化する映像表現とクリエイティブ環境への対応

「スポーツ」関連以外にもINTER BEE FORUMをはじめとする100を超える多彩なセッションでは、テレビにおける放送とネット連携、IP伝送、5G実用化、AI技術、4K8K技術に関するセッションなどが人気を博し、課題共有と今後の躍進へのステップとして有益な交流の場となった。

また、特別展示企画「INTER BEE CREATIVE」では、展示会場のオープンステージにおいて映画監督や、国内外の映像制作技術担当者、動画クリエータなど多彩なゲストから映像制作の最前線から最新動向とその創造性が紹介され、放送関係者から動画クリエータを目指す20代の若年層まで熱心にその内容に耳を傾けた。

●デジタルコンテンツEXPO 2019同時開催

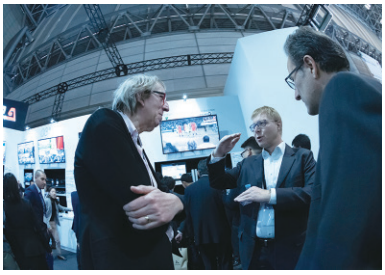
（一財）デジタルコンテンツ協会が主催する「デジタルコンテンツEXPO」と同時開催し、視覚、聴覚のみならず触覚や嗅覚に訴える表現や認知科学の成果等が結実した先端デジタルコンテンツ技術をテーマに、コンテンツ技術が切り開く未来を実感できる本国際イベントと、Inter BEEが訴求するコンテンツビジネスの広がりを背景とする最新技術・サービス・イノベーションとの相乗効果により、新たな発見とビジネスチャンスが創出された。







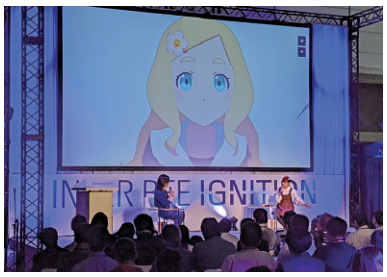






デジタルコンテンツEXPO 2019











会　期：2019年11月13日（水）～15日（金）
会　場：幕張メッセ
主　催：（一財）デジタルコンテンツ協会
後　援：総務省／経済産業省／文化庁／観光庁
東京都／東京商工会議所
（公財）画像情報教育振興協会（CG-ARTS）／（公財）ユニジャパン／
（一社）コンピュータエンターテインメント協会／
（一社）電子情報技術産業協会／（一社）日本動画協会／
（一社）VFX-JAPAN／（一財）家電製品協会／（特非）映像産業振興機構／
（特非）日本バーチャルリアリティ学会／
超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム／
上海マルチメディア産業協会／日中CG文化交流協会／香港貿易発展局／
台湾経済部デジタルエコノミー産業推進オフィス
公式サイト：https://www.dcexpo.jp/

総来場者数：21,970人（国内入場者数：21,488人　海外入場者数：482人）
ビジネスエリアの来場者数：21,970人
（国内入場者数：21,488人　海外入場者数：482人）
出展社数：57社（国内出展社数：43社　海外出展社数：14社）
出展参加国と地域数：4の国と地域
プレス社数：7社（国内プレス社数：6社　海外プレス社数：1社）

■開催内容

視覚、聴覚のみならず触覚や臭覚に訴える表現や認知科学の成果等が結実した先端デジタルコンテンツ技術をテーマとして、展示会、シンポジウム・セミナー、ステージイベント等のプログラムで構成される、コンテンツ技術が切り拓く未来を実感する国際イベントである。

「Content & Technology Showcase（CTS）」、「Innovative Technologies」、「TechBiz Creation & Matchmaking」のコーナーにおいて、先端技術やコンテンツをテーマとして、新たなビジネスやクリエイションを見出すための展示を展開した。

会場内の特設ステージでは、「1987デジタル革命～デジタルコンテンツの起源」をはじめデジタルコンテンツやコンテンツ技術、国際連携等をテーマとするコンファレンスのみならず、ピッチやワークショップ、特別賞の表彰式等、多岐にわたるイベントを実施した。

Inter BEEとの連携企画として国際会議場及び展示場内ステージにおいて、「神経美学と対話するデジタルコンテンツの未来」、「人に寄り添うCG／VFXによる映像表現」、「日米VR最新研究紹介」他、国内外の新進気鋭の研究者やアーティスト、ビジネスリーダー等を招請して、講演やトークセッション等を実施した。神経美学（脳・認知と美的体験や芸術活動との関係を研究する学際領域）による美的体験の枠組みをデジタルコンテンツに拡張することで、メディアコミュニケーションの新たな可能性を提示する等、コンテンツに関する先進的なテーマについて問題提起を行うことができた。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

2019年度は、「TechBiz Creation & Matchmaking」と題し、経済産業省が進める新コンテンツ創造環境整備事業（コンテンツ関連ビジネスマッチング事業）の一環として、日本の企業が有する先端コンテンツ技術の国際展開を支援するプログラムをDCEXPOにて実施。 公募により集められた技術の中から厳正な審査により選ばれた6件の展示・デモおよび内外からアドバイザーを招聘してピッチ・ワークショップを開催し、ビジネス展開への契機作りを行った。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

昨年に引き続き、幕張メッセにおいてデジタルコンテンツと親和性の高い、音と映像と通信のプロフェッショナル展「InterBEE2019」と同時開催した。

「Content × Technology」共同事業の先進事例を体験できる場の提供により、来場者の新たなコンテンツの活用、技術応用事例、事業展開・発想へとつなげることができた。

2019国際ロボット展
[INTERNATIONAL ROBOT EXHIBITION 2019（iREX2019）]

会　期：2019年12月18日（水）～21日（土）　10:00～17:00
会　場：東京ビッグサイト　青海・西・南ホール
共　催：（一社）日本ロボット工業会／日刊工業新聞社
後　援：経済産業省／厚生労働省／農林水産省／国土交通省／総務省／
　　文部科学省／日本商工会議所／
　　新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）／
　　日本貿易振興機構（JETRO）／NHK
対　象：ビジネス関係者、一般
公式サイト：https://biz.nikkan.co.jp/eve/irex/

総来場者数：141,133人（過去最多）
　　（国内入場者数：133,825人　海外入場者数：7,308人）
出展社数：637社（国内出展社数：542社　海外出展社数：95社）
出展参加国と地域数：16の国と地域

■開催内容

国際ロボット展は1974年に「国際産業用ロボット展」として開催が始まった展示会である。現在は産業用のロボットだけでなく、一般家庭や暮らしで利用されるサービスロボットの出展もあり、国内外のロボットが一堂に会する世界最大級のロボット・トレードショーとして、今回23回目の開催を迎えた。

出展社数は、ロボットメーカーや周辺メーカーなど、国内では542社にのぼり、海外企業も95社となり、国際色豊かな展示会となった。今回は東京オリンピックに伴う会場制限もあり、例年の東ホールから変更し、青海・西・南ホールの3会場を使用しての開催となったが、ロボット・AIなどに対する注目度も高く、来場者は前回の13万人を上回り、14万人を超える来場者が訪れた。

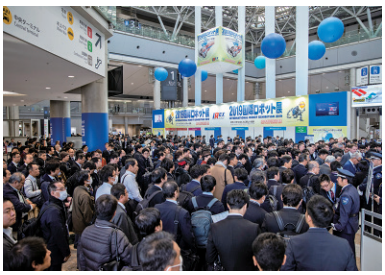
【会場の様子】

会場内では人と一緒に働く協働ロボットの展示や、農業ロボットや介護ロボットなど日々の生活にも使えるロボットが展示された。2018年に実施した「第8回ロボット大賞」の合同展示も会場内で開催し、トヨタ自動車のリハビリ支援ロボットや清水建設の建設現場で活躍するロボットなど、暮らしや現場で活躍するロボットが数多く展示された。

また、土曜日限定の企画として「つくる☆さわれる国際ロボット展」を開催し、工作教室やロボットの操作体験、海外の小中学生も多数参加したロボットの競技大会などを開催した。土曜日だけで約3万人近い来場者が展示会へ参加し、当コーナーへの参加も非常に多かった。

会期中は2020年に愛知県と福島県で本大会を開催する『World Robot Summit』（経済産業省、NEDO主催）のトライアル大会を同会場内で開催した。会場では本大会でも実施予定のロボットで組み立てを行う「モノづくり競技」や未来のコンビニを目指した「フューチャーコンビニエンスストアチャレンジ」が開催され、学生からエンジニアまで国内外の多くの参加者が挑戦した。

次回の国際ロボット展は、2021年12月上旬の開催を予定しており、より国際的なイベントを目指していく。


会場風景


産業用ロボットゾーン



サービスロボットゾーン


土曜日体験企画


World Robot Summit

4-iii　コ・フェスタ2019パートナーイベント

コ・フェスタパートナーイベントは、コ・フェスタイベントのうち、国際性及び規模等でオフィシャルイベントに準じ、コ・フェスタ実行本部が承認したイベントである。本年度は 21 イベントが認定された。そのうち国内は 15 イベント（1 イベントは中止）、海外は 6 イベント（1 イベントは中止）であり、多くの日本コンテンツファンを獲得できた。

1	第35回ATP賞テレビグランプリ
2	SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2019
3	第44回湯布院映画祭
4	C3 AFA TOKYO2019
5	第41回 PFF（ぴあフィルムフェスティバル）
6	京都国際マンガ・アニメフェア2019
7	きものサローネ in 日本橋2019
8	吉祥寺アニメワンダーランド2019
9	No Maps 2019
10	第11回京都ヒストリカ国際映画祭
11	MPTE AWARDS 2019 第72回表彰式
12	第10回映文連　国際短編映像映画祭「映文連アワード2019」
13	第13回アジア国際子ども映画祭IN南あわじ市
14	ヨコハマ・フットボール映画祭2020
15	東京アニメアワードフェスティバル2020　※開催中止

海外パートナーイベント

1	HYPER JAPAN Festival 2019
2	2019年Comic Exhibition 漫画博覧会
3	バンコク日本博2019
4	Madman Anime Festival -Melbourne2019
5	C3 AFA SINGAPORE 2019
6	C3 AFA HONG KONG 2019　※開催中止（開催概要無し）

第35回ATP賞テレビグランプリ

会　期：2019年7月11日（木）
会　場：六本木ハリウッドホール
主　催：（一社）全日本テレビ番組製作社連盟
後　援：総務省／経済産業省／日本放送協会／（一社）日本民間放送連盟
対　象：ドラマ37、情報・バラエティ60、ドキュメンタリー62、新人賞16、新人27
　　合計186
公式サイト：http://www.atp.or.jp/awards/atpaward/award_035.php

総来場者数：500人



■開催内容

『ATP賞』は、日本の映像コンテンツ産業の重要な担い手となっている製作会社の社会的機能を高め、そこで働く制作スタッフ一人ひとりの情熱や気概に応えるために、創り手である製作会社のプロデューサーやディレクターが自ら審査委員となって優れた作品を選ぶ、日本で唯一の賞として1984年に創設。ドラマ部門、ドキュメンタリー部門、情報・バラエティ部門の3つのジャンルを基幹部門として作品を募集し、最高賞のグランプリを決定。

2019年度の『第35回ATP賞テレビグランプリ』（主催：ATP）は、7月11日（木）六本木ヒルズハリウッドホールにて開催。応募総数は、186作品。栄えあるグランプリは、3部門の最優秀賞の中からATP会員社の投票によりドラマ部門のドラマ10「透明なゆりかご」（NHKエンタープライズ／NHK総合）に輝いた。最優秀新人賞には、優秀新人賞3名の中から、会員社の投票によって長谷川玲子さん（セイビン映像研究所）が選考された。

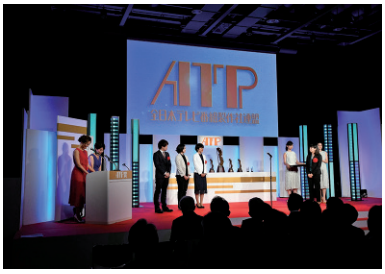


主な受賞作品

【最優秀賞】
　ドキュメンタリー部門
　　BS1スペシャル　テロリストの母と呼ばれて　闘いと再生の記録
　　（アマゾンラテルナ／NHK BS1）
　情報・バラエティ部門
　　見上げればあなたはいつもそこに　～祝 還暦・拝啓東京タワー様～
　　（テレコムスタッフ／NHK BSプレミアム）
　ドラマ部門
　　ドラマ10　「透明なゆりかご」（NHKエンタープライズ／NHK総合）



【優秀新人賞】
　杉本　暁子
　　Inside Lens　Danchi Woman　（NHK WORLD-JAPAN）
　長谷川　玲子（セイビン映像研究所）
　　<BSフジサンデースペシャル>ザ・ノンフィクション特別編　母の涙と罪と罰
　　（BSフジ）
　小林　哲平（日テレ アックスオン）
　　ネクストブレイク　天才のシロクロード　～アレがあるから今がある～
　　（日本テレビ放送網）
【総務大臣賞】
　スローな武士にしてくれ　京都 撮影所ラプソディー
　（オッティモ、NHKエンタープライズ／NHK BSプレミアム）
【特別賞】
　田原　総一朗
　樹木　希林





SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2019

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2019
SKIP CITY INTERNATIONAL D-Cinema FESTIVAL 2019











会　期：2019年7月13日（土）～21日（日）
会　場：SKIPシティ　映像ホール、多目的ホールほか／メディアセブン
主　催：埼玉県／川口市／SKIPシティ国際映画祭実行委員会／
　　NPO法人さいたま映像ボランティアの会
後　援：総務省／外務省／経済産業省／文化庁／（一社）日本映画製作者連盟／
　　（一社）映画産業団体連合会／（公財）ユニジャパン／
　　（一社）外国映画輸入配給協会／（公社）映像文化製作者連盟／
　　（一社）日本映画テレビ技術協会／
　　（一社）日本映画テレビプロデューサー協会／（協組）日本映画監督協会／
　　（協組）日本映画撮影監督協会／（協組）日本映画製作者協会／
　　全国興行生活衛生同業組合連合会／生活衛生同業組合埼玉県映画協会／
　　（一財）デジタルコンテンツ協会／（特非）映像産業振興機構／NHK／
　　FM NACK5／埼玉新聞社／（公財）埼玉県芸術文化振興財団／
　　アメリカ大使館／カナダ大使館／駐日韓国大使館 韓国文化院／
　　スウェーデン大使館／中華人民共和国駐日本国大使館／
　　デンマーク大使館／ノルウェー大使館／ハンガリー大使館／
　　在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本／
　　ブリティッシュ・カウンシル／駐日ブルガリア共和国大使館／
　　レバノン大使館
対　象：一般、映画関係者
公式サイト：http://skipcity-dcf.jp/

総来場者数：49,020人
出展参加国と地域数：92の国と地域861本（作品応募数）
プレス社数：約70社

■開催内容

第16回となったSKIPシティ国際Dシネマ映画祭2019は、7月13日（土）～21日（日）の9日間、埼玉県川口市のSKIPシティほかにて開催した。

オープニング作品は、『カメラを止めるな!』の上田慎一郎監督と、同作にスタッフとして参加した浅沼直也監督、中泉裕矢監督が共同で手掛けた『イソップの思うツボ』をワールド・プレミア上映。3名はそれぞれ本映画祭で過去にノミネートや受賞を果たしている期待の新鋭であり、本作は若手映像クリエイターの発掘・育成を掲げる本映画祭のオープニングにふさわしく、埼玉県とSKIPシティ彩の国ビジュアルプラザの支援事業として製作された。

本映画祭の中核であるコンペティションは、国際コンペティション、国内コンペティション（長編部門、短編部門）で構成されており、本年は92の国と地域から合計861本の応募があった。国際コンペティションの審査委員長には三池崇史監督、国内コンペティションの審査委員長には荻上直子監督と、第一線で活躍する映画監督の両名を迎え、国際コンペティション10本、国内コンペティション長編部門5本、同短編部門9本を上映。国際コンペティションの全作品と国内コンペティション長編部門の4作品、同短編部門の4作品が日本初上映となり、監督やプロデューサー、出演者などゲストも多数来場し映画祭を盛り上げた。

関連企画では、彩の国ビジュアルプラザが実施する映像学習プログラムや、川口子ども映画クラブが制作した作品を上映した「カメラクレヨン」、赤ちゃん連れでも気兼ねなく映画を楽しめる「ママ・シアター」のほか、彩の国ビジュアルプラザを拠点に活動するクリエイターの作品を上映した「メイド・インSKIPシティ」では、180°円周魚眼レンズで撮影された作品を半球型スクリーンで鑑賞するドーム映像版の上映も実施し、進歩し続ける映像技術を身近に体験できる、SKIPシティならではのプログラムとなった。

国際コンペティションでは、『ザ・タワー』（マッツ・グルードゥ監督）が最優秀作品賞と観客賞をW受賞。国内コンペティションでは長編部門優秀作品賞に『サクリファイス』（壷井濯監督）、短編部門優秀作品賞に『遠い光』（宇津野達哉監督）が輝いた。また、両コンペティションを通じた全日本作品を対象に、今後の長編映画制作に可能性を感じる監督に対して授与するSKIPシティアワードには『ミは未来のミ』

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2018

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2019
SKIP CITY INTERNATIONAL D-Cinema FESTIVAL 2019

（磯部鉄平監督）が選出された。



■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

本年は特集上映として「トップランナーたちの原点」と題し、ジョージ・ルーカス『THX-1138 ディレクターズカット』、クリント・イーストウッド『恐怖のメロディ』、スティーヴン・ソダーバーグ『セックスと嘘とビデオテープ』、三池崇史『新宿黒社会 チャイナ・マフィア戦争』といった、国内外で高く評価され、映画史に名を刻む巨匠監督4名の才気溢れる貴重なデビュー作を上映。『恐怖のメロディ』上映後には「午前十時の映画祭」事務局員の岡村尚人氏、『新宿黒社会 チャイナ・マフィア戦争』上映後には三池崇史監督と主演の椎名桔平氏、プロデューサーの土川勉（本映画祭ディレクター）によるトークイベントを開催。当時の社会背景や撮影秘話を交えたお話を伺えた貴重な機会となった。

第44回湯布院映画祭



パーティー


舞台挨拶


舞台挨拶


野外上映


シンポジウム


シンポジウム

会　期：2019年8月22日（木）～25日（日）
会　場：由布市由布院公民館
主　催：湯布院映画祭実行委員会
後　援：由布市／由布市商工会／大分県興行生活衛生同業組合／
大分合同新聞社／NHK大分放送局／OBS大分放送／TOSテレビ大分／
OAB大分朝日放送／J:COM大分ケーブルテレコム／CTBメディア／
エフエム大分／ゆふいんラヂオ局／JR九州
対　象：日本映画ファン
公式サイト：http://www.d-b.ne.jp/yufuin-c/

総来場者数：2,400人
プレス社数：6社

■開催内容

現在の日本映画の製作過程において、多くの資金を集めるために製作委員会方式が採用される場合が多く、多数の企業から出資を募る方式が主流となっているが、スポンサーの数が増えれば、より一般受けしそうな原作や人気のある出演者に頼らなければならなくなり、製作者の意図が反映されにくいという面もある。そんな現状に決して妥協することなく、独自で魅力のある映画を作り続けている、佐藤現、森重晃という二人のプロデューサーに焦点を当て、企画発掘のポイントや困難を乗り越え、いかに映画制作を実現しているかを検証する。企業内プロデューサー、プロダクション経営者とそれぞれ立場が違う二人の発言から日本映画製作の現状を考える。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

1本の映画が完成し観客が鑑賞出来るまでには、多数の人が関わっていることは、漠然とは理解していても、その中心にいて製作を統括するプロデューサーの具体的な役割について、今回の特集により参加者の多くが理解することが出来た。

プロデューサーに大きな権限が与えられている海外の映画製作とは違い、職能としてのポジションとしか捉えれていない日本映画界にあって、自分の実現したい映画をスタッフ、キャストを含めて、いかに集合させるかを画策し模索しているのか、その苦労と映画に対する飽くなき情熱を感じ取ることが出来た。

C3AFA TOKYO 2019

会　期：2019年8月24日（土）・25日（日）
会　場：幕張メッセ国際展示場1・2・3ホール
主　催：C3AFA TOKYO実行委員会
後　援：千葉県／千葉市／日本商品化権協会／日本玩具文化財団／日本動画協会
協　賛：ジョージア／相模屋
対　象：ホビーファン、アニメファン
公式サイト：https://www.c3afatokyo.com/

総来場者数：2日間60,500人　「昨年比121%」
出展・参加・協力・後援企業数：約288団体
プレス社数：68媒体／87名





■開催内容

■C3AFA TOKYOとは

キャラクターとホビーの文化を融合させた日本最大級の参加型エンターテイメントイベント。様々なジャンルからの企業出展ゾーンや、多彩なゲストを迎えてのステージ、イベント限定の版権許諾マーケット、コスプレイヤーが集うコスプレプラザなどの企画を実施。



●企業出展ゾーン（8月24日、25日）

企業出展ゾーンでは、様々な分野の各企業による物販・プロモーションの場としてブースが展開された。ブース内では、実演・体験コーナーや、ユーザー参加型のイベントも多数開催された。

出展ブース：AvanGarage、ANIPLEX、アニメツーリズム協会ー2020年版アニメ聖地投票受付中ー、アユート、インドア、WEBくじ（株）ディ・テクノ）、AT-X、ADKエモーションズ、EVOLUTION・TOY、エメマン25周年×機動戦士ガンダム40周年 コラボデザイン缶 販売ブース、ガイアノーツ、Kaca Entertainment、KADOKAWA、カミカゼスタイル、カラオケまねきねこ、キック・アス、CHARA-ART、グッドスマイルカンパニー、GRANTdesign、クリーク・アンド・リバー社、クローバーラボ、COSPA/トライアル/アクシア、GodHand、THEキャラ、SANKYO、サンスター文具、スタジオユーワ、Space Age、千値練、ゾイドワイルドZERO、造形工房密林、デアゴスティーニ・ジャパン、T-FAN SITE、といふるっ！/インパクトジャム、東京フィギュア、日本商品化権協会、日本中央競馬会、NetEase Games｜機動都市X、はごろもフーズ シーチキン号、バンダイ、BANDAI SPIRITS、バンダイナムコアーツ、バンダイナムコエンターテインメント/バンダイナムコオンライン/バンダイナムコアミューズメント、プレックス、文化放送A&G／文化放送エクステンド、ボークス、ポニーキャニオン、ホビージャパン、ホビーベース、MIKASA、ミネシマ、ムービック、メガハウス、夢色キャスト THEATER SHOP 出張所、ラジオ大阪 V-STATION、RHYTHM WATCH CO.,LTD



●ステージイベント（8月24日、25日）

会場中央に設置されたステージイベントでは12団体が出演し、人気声優や豪華ゲストによるトークショー、アニメの製作発表、人気アーティストによるスペシャルライブなどが開催された。

出演団体：i.C.L.（株）（delie）、エイベックス・ピクチャーズ、AT-X、劇場版「SHIROBAKO」製作委員会、SANKYO、ゾイドワイルドZERO製作委員会、PROJECT-INDEX Ⅲ、PROJECT-ACCELERATOR、文化放送、文化放送エクステンド、ドワンゴ、ラジオ大阪



●C3AFAマーケット2019（8月25日）／C3AFA MARKET PLUS 2019（8月24日、25日）

マーケットディーラー201組が参加したC3AFAマーケット2019は、本イベント限定のマーケットとなっており、ガレージキットの販売・展示を主としている。本イベ

C3AFA TOKYO 2019

ント限定で版権許諾を受けたアニメキャラクターやアイテムなどのガレージキットが販売された。また、昨年に引き続き、2日間開催の「C3AFA MARKET PLUS」も実施された。

●eスポーツエリア（8月24日、25日）
今年2度目の開催となる「GGGP2019」では、PlayStation®4の基本プレイ無料、『機動戦士ガンダム バトルオペレーション2』とドームスクリーン式戦術チーム対戦ゲーム、『機動戦士ガンダム 戦場の絆』の2タイトルでのゲーム大会を実施され、多くのゲームユーザー、ゲームファンが来場し、盛り上がりを見せた。

●コスプレプラザ2019（8月24日、25日）
昨年に引き続き、多彩な撮影エリアを用意したコスプレプラザでは、コスプレを存分に楽しめるコンテンツを用意し、好評を得た。今回も「C3AFA TOKYO 2019コスプレプラザ 公式サポーター」として多くの人気コスプレイヤーが登場し、人気DJと話題のV tuberが特設ステージで特別出演など、様々な盛り上がりを見せた。

●キッズファミリーコーナー（8月24日、25日）
親子で楽しめる遊戯空間として、子供向けの大人気ヒーロー＆ヒロインによるキャラクターショーを開催。C3AFA TOKYOオリジナルのふわふわなど、無料で楽しめるアトラクションも充実しており、家族連れ以外にも幅広いファンが訪れた。

●子どもイラストコンクール（8月24日、25日）
毎年恒例となっている子どもイラストコンクールでは、テーマを「たんけんロボット」とし、イベント当日は多くの入賞者が来場し、協賛各社から商品とプレゼントが贈呈された。

●飲食コーナー（8月24日、25日）
多くの参加者の食欲を満たす場として、飲食コーナーでは5つの団体が出展。
出展ブース：ケンタッキー・フライド・チキン／Pecoration Foods／とんかつまい泉／ドミノ・ピザ／幕張シーサイド

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など
新規出展企業が増え、出展社数が昨年比62% UP。ステージも出展ブースも女性向けのコンテンツが去年より増えたため、入場者の男女比が従来の約8：2から約7：3になり、女性の入場者が増えた。

第41回ぴあフィルムフェスティバル

PIA FILM FESTIVAL

会　期：東京　2019年9月7日（土）～21日（土）　※月曜休館
　　福岡　2020年4月25日（土）～29日（水・祝）　開催予定
会　場：東京　国立映画アーカイブ
　　福岡　福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ
主　催：東京　（一社）PFF／国立映画アーカイブ／
　　（公財）川喜多記念映画文化財団／（公財）ユニジャパン
　　福岡　映像ホール・シネラ実行委員会
後　援：NPO法人映像産業振興機構（VIPO）／（協組）日本映画監督協会
対　象：一般の方々、映画監督志望者、映画製作・映画配給関係者、映画・映像教育機関関係者　など
公式サイト：http://pff.jp/

総来場者数：約6,000人
プレス社数：新聞社：26　通信社：5　雑誌：6　WEB：596　テレビ：2　アプリ：6

■開催内容

●コンペティション部門「PFFアワード2019」

全国から応募された自主映画495本の中から、入選18作品を東京会場で2回ずつ上映、さらに映画祭初日から同時配信を実施。会期末の表彰式で、グランプリをはじめ各賞を発表し、表彰。映画祭最終日には、5名の最終審査員が選出した、グランプリ・準グランプリ・審査員特別賞（3本）の計5作品を上映した。

2020年4月開催の福岡会場でも入選18作品を上映予定。

●招待作品部門

①劇場版『ガンダムGのレコンギスタ Ⅰ』特別先行上映

富野由悠季総監督が15年ぶりに手掛けた同作を、全国公開に先駆け、特別先行上映。チケットは即日完売し、大盛況の上映となった。

②凄すぎる人たち～カッコいい女編/諦めない男編～

タイトルの通り「凄すぎる」新旧7作品を上映。『おみおくり～Sending Off～』『シューティング・マフィア』は日本初上映となった。

③巨匠たちのファーストステップ Part4

15年ぶりの長編デビュー作特集。ヴィスコンティやジャック・ドゥミから、バリー・ジェンキンスの未公開作『メランコリーの妙薬』まで、全8作品を上映した。

④ブラック＆ブラック～映画と音楽～

ブラック映画・音楽を紹介するための新企画。ピーター・バラカン氏もゲスト来場し、大人気を博した『真夏の夜のジャズ』は、緊急追加上映も実施。

⑤PFFスペシャル講座「映画のコツ」

PFF毎年恒例の講座企画、今年はバラエティ豊かな3プログラムを実施。

建築家・デザイナーの寺田尚樹氏による1/100建築用模型を用いた「テラダモケイピクチャーズ」。福岡市総合図書館が発見した伝説の8ミリ作家「中山太郎傑作選」。橋口亮輔監督が語る「天才・木下恵介は知っている その3」。

⑥カンヌ映画祭批評家週間って何?

PFFとは対極の、批評家連盟が運営する「カンヌ批評家週間」を特集。短編コンペ部門9作品の上映と共に、プログラマーのレオ・ソエサント氏のトーク、さらに同部門で上映された『典座-TENZO-』を特別先行上映。

⑦追悼・吉武美知子プロデューサー

突然の訃報を受け、急遽、吉武美知子プロデューサーの追悼企画を実施。ゲストの堀越謙三プロデューサー、黒沢清監督、諏訪敦彦監督と共に、フランスと日本を繋ぎ続けた、吉武さんを改めて紹介。



会期中の国立映画アーカイブ外観


受賞監督＆プレゼンター集合写真



富野由悠季総監督



ピーター・バラカン氏


黒沢清監督

第41回ぴあフィルムフェスティバル



「PFF アワード 2019」イメージポスター制作プロジェクト


会場ロビーの様子

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

●「PFFアワード2019」イメージポスター制作プロジェクト

「PFFアワード2019」が、多摩美術大学・東京造形大学・日本大学・武蔵野美術大学の4校がコラボレーションし、18作品のイメージポスターを制作。

若い監督たちの入選作品をモチーフに、学生デザイナーたちが制作した、フレッシュなポスターが、映画祭期間中の会場ロビーに大々的に並んだ。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

●国内

①「第31回東京国際映画祭」との提携企画として、「PFFアワード2019」グランプリ作品『おばけ』と準グランプリ作品『雨のやむとき』を2本立て上映し、質疑応答を実施。PFF来場者ではない、一般の映画ファンにも来場いただいた。

●海外

①前年「PFFアワード2018」の入選作が、海外映画祭で次々に上映。グランプリ作品『オーファンズ・ブルース』など7作品が、のべ20回以上上映された。

②台湾の高雄フィルムアーカイブで、PFFの特集「日本爆裂。獨立時代 – PIA影展映畫大賞」が開催。2017年に続き、2度目のPFF特集となる今回は、近年の入選作品の中から全8作品が上映された。

京都国際マンガ・アニメフェア

会　期：2019年9月21日（土）・22日（日）
会　場：みやこめっせ　他
主　催：京都国際マンガ・アニメフェア実行委員会／京都市
共　催：京都国際マンガミュージアム／KYOTO CMEX 実行委員会／
　　京都コンピュータ学院・京都情報大学院大学／東映太秦映画村
後　援：経済産業省
対　象：マンガ・アニメに関する企業・団体など
公式サイト：http://kyomaf.kyoto/

総来場者数：過去最多の47,160人
出展社数：69社
プレス社数：51社

■開催内容

「京都の企業と版権を持つ首都圏企業とのコラボ商品の開発」、「クリエイターの育成・ 支援」、「新たな観光客の発掘」、「海外への情報発信」を目的として開催している西日本最大規模のマンガ・アニメの総合見本市。

8回目となった今回は、東映太秦映画村を特別会場とし、開催2日間の来場者総数は過去最高の約4万7千人となった。みやこめっせ会場において3フロアで展開した出展ゾーンではグッズ販売や原画展示、ワークショップ、ミニイベントなど個性豊かなブースが京まふを彩ったほか、ショップ内で展開された友禅職人による実演販売や人気作品とのコラボフードやドリンクの販売を行ったキャラカフェに長蛇の列ができるなどの盛況となった。トークイベントや最新アニメの発表、人気ゲームのオーケストラコンサートなどを展開したロームシアター京都をはじめ、京都国際マンガミュージアム会場内の2つの企画展やトークショー、コンサート、ファミリー企画、東映太秦映画村内の人気アニメの企画展など多くの方々に楽しんで頂けた。

毎年開催しているマンガ出張編集部や昨年度に引き続き京都に拠点を置くアニメ・ ゲーム企業の就職イベントを開催した。京都国際漫画賞はマンガ家志望者が京都を通じてプロデビューする機会を創出することを目的とした国際漫画賞として，今年度から「日本部門」と「海外部門」を統合し、「世界一の作品を決める漫画賞」としてリニューアルした。さらにイラスト部門を新設し、67の国と地域から1,127作品の応募があった。また、今年度は新たに京都を題材とした小説やマンガを生み出すためのセミナーを実施した。

「京まふ」の参加者増、開催機運の醸成という目的に賛同・支援いただける34企業、団体、店舗等にチラシ配布、ポスター掲示やウェブ告知に御協力いただくなど、8年目を迎えた京まふ開催に合わせた広域的な賑わい創出の取組が拡大している。産業振興面においては、新たに93種の商品を開発・販売した。

このように、京まふを契機とした様々な取組が定着しつつあることを感じることができた会期であった。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

市内での開催機運醸成及び「コンテンツ都市 京都」の認知度を高めるため、「京まふ」との一体的なプロモーションで盛り上げていく場として「東映太秦映画村」を特別会場と位置付けた。2日間の来場者は8,700名。

マンガ・ゲーム等で京都を舞台とした作品を手掛けているクリエイターを講師に、京都を題材とした小説やマンガを生み出すためのクリエイター向けセミナーを初開催。参加人数は33名。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

・マンガ・アニメ作品と京都企業10社とのコラボ商品を新たに93種開発・販売。
・地元・ 行政による文化イベント、アニメ好きを対象とした街コン、博物館や神社仏閣、人気観光地での展示会やコラボ企画、百貨店でのグッズ販売の展開などの連携により、広域的な賑わいを創出。








きものサローネ in 日本橋2019













会　期：2019年10月4日（金）～6日（日）
会　場：10月4日～6日：YUITO【きものカーニバル】（日本橋室町野村ビル5・6階）
　　10月4日：日本橋三井ホール【きものファッションショー】
　　（COREDO室町1　4・5階）
主　催：きものサローネ in 日本橋 実行委員会
後　援：京都府／東京織物卸商業組合／京都織物卸商業組合／西陣織工業組合／
　　名古屋織物卸商業組合
特別後援：三井不動産㈱／野村不動産㈱
対　象：一般来場者・業界関係者
公式サイト：https://kimono-salone.com/

総来場者数：5,700人
出展社数：101社（国内出展社数：101社　海外出展社数：0社）
プレス社数：約50社

■開催内容

【YUITO・きものカーニバル】

《きものマルシェ》:
全国の産地メーカー・問屋・小売店など101社が出展。会場の5階・6階にくまなくブースを配置して着物から小物まで試して、遊んで、お買い物をコンセプトに実施。

《企画》:
特設ステージを設けトークショー・音楽ライブなどを実施。実演体験のブースも実施し、連日体験を楽しむお客様で賑わった。

《実演体験ブース一覧》:
着物スタイル協会「着物パーソナルカラー診断」・藤岡組紐店「高台による帯締め製作実演」・武田染工「墨流し染体験」・吉澤暁子きもの着付け教室「着付けレッスン＆シミ抜き講座」

《ステージイベント》:
きくちいまトークショー「今をもっと楽しむためのきもの」・日本ゆかた文化協会「ゆかたファッションショー」・Kotazライブ「ギター演奏」・全国邦楽器組合連合会「尺八」「琴」演奏・早比楽着付け教室「帯の前結び」・吉澤暁子着付け教室「やせ見え補正講座」・サノ・アイディー「ダンス」

《スイーツコーナー》:
洋菓子店「ラコンチュルオカヤス」によるスイーツの販売。

《YUITOブランドファッションコーデ》:
出展各社によるマネキンコーディネートを会場内に約70体展示、来場者にお好みのコーディネートを3体選んでいただくアンケートを受付にて実施。合計約1,600票の投票があった。

【YUITO・学生きもの優秀作品展】

・7校の大学・専門学校から、15作品の出品を頂き展示。次代を担う新しい感性の育成、励ましの場として好評であった。

【日本橋三井ホール・きものファッションショー】

・本年も4メゾンが参加しTKC（東京きものコレクション）がJFW（ジャパンファッションウィーク）の関連イベントとして、外国のプレスや雑誌などのメディア取材ではキモノをファッションとしてムーブメントと捕らえる報道もあった。
参加メゾン：京鹿の子絞振興協同組合・室華風・綺萌野・JOTARO SAITO

吉祥寺アニメワンダーランド2019

会　期：2019年10月10日（木）～20日（日）
会　場：吉祥寺駅周辺
　　（吉祥寺シアター、リベストギャラリー創、東急百貨店吉祥寺店北側広場
　　ほか）
主　催：吉祥寺ウェルカムキャンペーン委員会
　　（武蔵野商工会議所／武蔵野市商店会連合会／吉祥寺活性化協議会）
後　援：武蔵野市／（一財）武蔵野市開発公社／東京都／
　　経済産業省関東経済産業局
協　賛：アスミック・エース㈱／吉祥寺ハロウィンフェスタ／稲垣薬局／
　　㈱リベスト／㈱武蔵境自動車教習所／FUTABA／トヨタモビリィ東京㈱／
　　Simple Swing Golf／ウテナ産業㈱／西武信用金庫／吉祥寺コスモ／
　　㈱復刊ドットコム／キリンビール㈱
協　力：㈱東北新社／アスミック・エース㈱／㈱ロクリン社／㈱タツノコプロ／
　　㈱スタジオデーン／コアミックス／ノース・スターズ・ピクチャーズ／
　　STUDIO4℃／チェブラーシカ・プロジェクト／㈲冴羽商事／
　　Φ phy（ファイ）／A吉スタジオ／㈱プロダクション・アイジー／
　　㈱フロンティアワークス／㈱復刊ドットコム／㈱アニプレックス／
　　㈱エポック社／㈱博報堂／㈱円谷プロダクション／㈱ウェーブ／
　　㈱GSIクレオス／成蹊大学漫画研究会ペルシャ猫／宮地楽器／
　　関東バス／小田急バス／ジェイコム東京 武蔵野・三鷹局　（順不同）
対　象：武蔵野市内外の外国人を含む来訪者及びアニメファン
公式サイト：http://www.kichifes.jp/wonderland

総来場者数： 11,800人











■開催内容
　吉祥寺は、数多くのアニメスタジオが存在し、クリエイターも多数在住していることから、多くのアニメ作品が生み出され、また作品の舞台となっている。そこで1999年度より、吉祥寺を「作品が生まれるまち」と位置づけ、地元ゆかりのスタジオやクリエイターを中心に、自治体や地域商店街、大型店等とコラボレートしたアニメイベントを毎年開催し今年で21回を迎えるイベントである。
　イベントは毎年10月に開催され、その年のメインビジュアルを選出しそのキャラクター達がポスターやフラッグとなり吉祥寺のまち中に掲げられ、吉祥寺はアニメ一色に染まっている。イベント内容も多彩で東急百貨店吉祥寺店北側広場でのステージイベント、まちなかファミリーステージ、親子アニメプラモデル教室、大型店のコラボカフェ、吉祥寺シアターでのトークショーやアニメ上映会、ハイレベルなコンペティション映画祭として認知度が高まっている「吉祥寺アニメーション映画祭」など、三世代で楽しめるイベントである。
　2019年のメインビジュアルは、「ひつじのショーンハロウィン仕様」、ちょっぴりイギリス流のジョークが利いた可愛さとドタバタのコメディ、ひつじのショーンとその仲間の動物たちをハロウィーンバージョンに変身させての登場であった。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など
　吉祥寺アニメワンダーランドがこの秋拡張リニューアルをして、市街地でのイベントはアニメをテーマにした「まちなかアニメ広場」に、15回目を迎える「吉祥寺アニメーション映画祭」は上映プログラムを充実させて3日間開催の本格的な映画祭にした。そして、メインキャラクターは広い年齢層に支持されている「ひつじのショーン」として10月にふさわしくハロウィン仕様で登場させた。
　しかし、東海から関東、東北地方に甚大な被害をもたらした台風19号の襲来が見込まれたため、安全第一を考え10月12日（土）・13日（日）両日開催の森の3イベントを中止にした。翌日14日以降のイベントは無事に開催され、総動員数は延べ約11,800人で例年の半分以下となった。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果
　吉祥寺の大型店や書店、公立図書館、カフェがアニメをテーマに期間中イベントと連携して実施した。

吉祥寺アニメワンダーランド2019



○吉祥寺パルコ：4F ひつじのショーンカフェ with サンデーブランチで、Wallace & Gromit's 30 Cracking Years！　ショーンカフェでお祝いしよう‼ ウォレグル30周年アニバーサリー限定チーズメニューが登場！ B1F 特設会場で、「おさるのジョージ　うきうきマーケット」期間限定ショップ
○ユニクロ吉祥寺店：7F UTme！コーナーで、ひつじのショーンUTme！
○キラリナ京王吉祥寺：4F キラリナ広場／7F 啓文堂書店で、「映画　すみっコぐらし　とびだす絵本とひみつのコ」パネル展
○丸井吉祥寺店：1F イベントスペースで、「すみっコぐらし」期間限定ショップ in 丸井吉祥寺店
○BOOKSルーエ：階段ショーウィンドウで、わたしたちは、いま！特別展示
○サンロード商店街：サンロード商店街アーケード内で、江口寿史の2019新作「彼女」フラッグ
○吉祥寺図書館：2F まなびとつどいのへやで、未来の巨匠がここに!? 2019
○アートサロン和錆：アートサロン和錆店内で、亜土ちゃんカフェOPEN！

NoMaps2019

会　期：（メイン会期）2019年10月16日（水）～20日（日）
会　場：札幌市内中心部
主　催：No Maps実行委員会
後　援：多いため割愛（公式サイト参照）
対　象：感度の高いビジネスマンを中心に一般の方も含め広く対象
公式サイト：https://no-maps.jp/

総来場者数：23,611人
出展社数：13社

■開催内容

NoMapsは、札幌・北海道という象徴的な開拓の地で、クリエイティブな発想や技術によって次の社会を創ろうとする“現代的フロンティアスピリット”を持った人たちのためのコンベンション（人、情報、知識、物などの交流の場）である。

NoMapsに集った人々はもちろん、この地で暮らす人々のクリエイティビティも高め、地図にまだ描かれていない新たな領域を、札幌・北海道から切り拓いていこうとするもので、先端テクノロジーや斬新なアイディアを核とした「新しい価値観／文化／社会の姿」を提案するビジネスコンテンツをテーマに、「会議（Conference）」「展示（Exhibition）」「興行（Event）」「交流（Meet-up）」「実験（Experiment）」の５つの事業によって、新たなビジネスを生み出し、加速させるための場を提供している。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

2016年にプレ開催、2017年から本格開催をスタート。2019年は、本格開催2年の経験・ノウハウを生かし、ビジネスカンファレンスを核として、より効果的・効率的に事業を実施することを意識しつつ、街全体を活用したコンベンションとして札幌文化芸術交流センター SCARTSを新たな会場に、より幅広いコンテンツを提供することができた。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

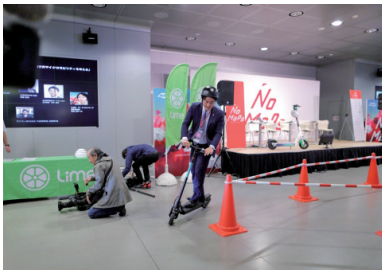
別紙NoMaps2019レポートを参照ください。













第11回京都ヒストリカ国際映画祭













会　期：2019年10月26日（土）～11月4日（月・祝）
会　場：京都文化博物館
主　催：京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会
（京都府／京都文化博物館／東映㈱京都撮影所／㈱松竹撮影所／㈱東映京都スタジオ／巖本金属㈱／㈱ディレクターズ・ユニブ／立命館大学）
共　催：KYOTO CMEX実行委員会
後　援：（一社）日本映画製作者連盟／（一社）外国映画輸入配給協会／（一社）日本映画テレビ技術協会
対　象：一般
公式サイト：https://historica-kyoto.com/

総来場者数：2,587人

■開催内容

歴史をテーマにした世界で唯一の国際映画祭。今年は【今こそ語り合おう京都アニメーション、そして京都がアニメ文化史に刻んだ足跡を深掘りする】と題した特別企画に加え、最注目作品を集めた【ヒストリカ・スペシャル】、世界の新作歴史劇をセレクトした【ヒストリカ・ワールド】、東映動画と『子連れ狼』、2つのテーマを取り上げた【ヒストリカ・フォーカス】ほか、ヴェネチア国際映画祭や京都フィルムメーカーズラボとの連携企画を含む全27作品の上映を行った。

特別企画では、日本初の長編カラーアニメーション『白蛇伝』の4Kデジタル復元版と、ハイクオリティな作品を生み出し続けている京都アニメーションの作品を上映し、好評を博した。また無声映画時代を描いた周防正行監督の『カツベン！』や昭和初期の祇園風景が味わえる『祇園小唄絵日傘舞ひの袖』など、例年以上に多彩なラインナップを揃えた。

さらに、国内外のゲストが登壇して歴史映画を語るトークショーも開催し、それぞれの魅力や楽しさの再発見につなげるとともに、今年も昨年に引き続き「HISTORICA×VR」を開催、VRコンテンツの制作企業を集め、体験ブースやセミナーも実施した。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

例年のプログラムに加えて、今年度は【今こそ語り合おう京都アニメーション、そして京都がアニメ文化史に刻んだ足跡を深掘りする】と題した特別企画を実施した。

アニメ草創期に活躍した政岡憲三一派、戦後の拡大期にアニメ表現に一石を投じた東映京都出身の演出家たち、そして現在、世界中のファンから敬愛される京都アニメーション、その足跡を三部に分けて紹介をした。京都で開催しているヒストリカならではの企画が実現できたと考えている。またこれまでにない観客にも訴求ができ、多様な来場者を呼ぶことができた。





MPTE AWARDS 2019 第72回 表彰式

会　期：2019年10月31日（木）
会　場：六本木アカデミーヒルズ49 オーディトリアム
主　催：（一社）日本映画テレビ技術協会
後　援：経済産業省／（一社）映画産業団体連合会／（一社）日本映画製作者連盟／
（公財）ユニジャパン／（公社）映像文化製作者連盟／
（一社）外国映画輸入配給協会／全国興行生活衛生同業組合連合会／
（特非）映像産業振興機構／（一社）日本映像ソフト協会／
（一社）日本アド・コンテンツ制作協会／
（一社）日本ポストプロダクション協会／NHK／（一社）日本民間放送連盟／
（一社）全日本テレビ番組製作社連盟／（協組）日本映画監督協会／
（協組）日本映画撮影監督協会／（協組）日本映画・テレビ照明協会／
（協組）日本映画・テレビ美術監督協会／
（協組）日本映画・テレビ録音協会／（協組）日本映画・テレビ編集協会／
（公社）日本照明家協会／（特非）テレビ日本美術家協会／
（特非）日本ビデオコミュニケーション協会（順不同）
対　象：映像技術に興味をお持ちの方どなたでも（受賞関係者以外もご参加頂けます）
公式サイト：http://www.mpte.jp/

総来場者数：165人
プレス社数：10社

■開催内容

1947年の創立以来、制作現場で技術に携わっておられる方々を表彰する日本で唯一の賞として、映像制作技術の進化と制作意欲の向上を目的に、長年実施しているMPTE AWARDS。毎年、1月～3月に該当年度の応募を受け付け、4月～9月には、そのジャンルごとの技術者・総勢120名を審査員に迎え、厳正な審査会を都度実施し、受賞を決定している。

2019年は、「第72回技術開発賞」、「第72回映像技術賞」、「第37回青い翼大賞（学生作品の映像技術賞）」、「第22回経済産業大臣賞（日本映画テレビ技術大賞）」の授与を行った。技術開発賞では現場開発だけではなく、学術分野からの応募もあり、4K/8K、AI、配信等、時流を反映した開発物件が多く見受けられたことが紹介された。映像技術賞に関しては、撮影・照明・録音・音声・美術・編集・アニメーション・VFX・OAGの各分野をそれぞれ表彰。出演キャラクターからのお祝いメッセージも上映され、盛り上がった。同技術賞の学生作品版である青い翼大賞では、チームの一体感が突出していた意欲作の他、手描きによるVRアニメーション作品を表彰した。場内に設置した本作品のVR体験コーナーには多くの来場者に参加頂いた。

協会創立と時を同じくして始まった本AWARDS。72回目を迎える現在は、映像コンテンツを誰しも気軽に発信できるようになり、製作環境は急速に変化し続けていると言える。だが、どの様な時代になろうとも、映像を創るのは人＝技術者の皆様。これから映像業界を目指す次世代の技術者達に意欲と勇気を与えることが出来る意義ある顕彰活動であるよう、次回に向け益々の発展を約束し、閉会した。











第10回 映文連 国際短編映像祭「映文連アワード2019」













会　期：2019年11月25日（月）～27日（水）
会　場：表彰式：国立新美術館講堂　上映会：ユーロライブ
主　催：（公社）映像文化製作者連盟
後　援：文部科学省／経済産業省／東京都／映像産業振興機構／
日本映画テレビ技術協会／日本アド・コンテンツ制作協会／
日本ポストプロダクション協会／日本映画撮影監督協会／
日本映画テレビ照明協会／デジタルコンテンツ協会／毎日新聞社／
日本経済新聞社／朝日新聞社／読売新聞東京本社／映像新聞社／
ユニ通信社
対　象：一般、学生、映像制作関係者
公式サイト：https://www.eibunren.or.jp/award2019/index.html

総来場者数：650人
プレス社数：6社

■開催内容

13回を迎えた、わが国唯一の産業・文化関連の短編映像祭「映文連アワード2019」表彰式は、11月25日（月）午後1時30分から国立新美術館講堂において開催し、最優秀作品賞（グランプリ）を始め、29作品の受賞者に賞状とトロフィーを授与した。

「映文連アワード2019」受賞作品上映会は、26日（火）・27日（水）に渋谷・ユーロライブにおいて開催し、受賞作品29本を6プログラム（「東京のまち・人」「人々の歴史とわざ」「コーポレート映像は今」「語り継ぐべき記憶」「短編の未来形」「心を映す、自然を映す」）に分けて上映した。

Aプログラム「東京のまち・人」では、＜“東京”を語る＞と題して、受賞監督やプロデューサーに参加してもらい、作品づくりを通して「まち」や「人」を撮る面白さや苦労など語ってもらった。モデレーターは、二次審査委員の谷川建司氏（映画ジャーナリスト・早稲田大学政治経済学術院客員教授）。Cプログラム「コーポレート映像は今」では、＜ひとに届くコーポレート映像＞と題して受賞監督に参加してもらい、どうしたらメッセージが届くか、感動を呼ぶ映像が出来るか、その演出法や工夫など語ってもらった。モデレーターは、二次審査委員の長谷部守彦氏（博報堂エグゼクティブクリエイティブディレクター）。2日めの「短編の未来形」では、パーソナル・コミュニケーション部門で受賞した監督等6名に集まってもらい、＜短編の未来を語る＞と題して、若手監督たちが作品に込めた想いや短編の未来について思うことなどを聞いた。モデレーターは、二次審査委員の塩田泰造氏（映像ディレクター／劇団「大人の麦茶」主宰）。

26日夜は、「International Corporate Film Showing 2019」を開催し、ドイツのWorld Media Festival、米国のU.S. International Film & Video Festival、Cannes Corporate Media & TV Awardsから招聘した映像祭で受賞した企業映像15作品を上映した。今年はMC（青柳愛）が進行を務め、カンヌコーポレートメディア＆TV大賞より映像祭担当の宮川ラーサさんが初来日し、ゲスト出演した。上映後は、懇親会を開催、ドリンクを飲みながら交流をはかった。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

- これまで上映会でのトークセッションは、2プログラムで行ってきたが、今年は1つ増やし、コーポレート・コミュニケーション部門でも映像制作の背景や監督の意図をより広く知ってもらえるような配慮をした。
- 「International Corporate Film Showing」では、Cannes Corporate Media & TV Awardsに2013年より作品招聘にご協力頂いているが、今回初めて映像祭担当者をゲストに迎えて同映像祭や海外の企業映像の置かれている状況を紹介してもらい、今後の海外との連繋強化に繋がる上映会となった。

第13回アジア国際子ども映画祭IN南あわじ市

会　期：2019年12月7日（土）
会　場：南あわじ市文化体育館
主　催：アジア国際子ども映画祭実行委員会
共　催：外務省／鹿児島県教育委員会／北見市／北見市教育委員会／江別市／
　　江別市教育委員会／彦根市／彦根市教育委員会／南あわじ市／
　　南あわじ市教育委員会
後　援：法務省／経済産業省／兵庫県／兵庫県教育委員会／
　　（公財）兵庫県青少年本部／
　　（公財）ブルーシー・アンド・グリーンランド財団／NHK神戸放送局／
　　朝日放送テレビ／関西テレビ放送㈱／サンテレビジョン／MBS／
　　讀賣テレビ放送㈱／朝日新聞神戸総局／神戸新聞社／
　　産業経済新聞社洲本支局／毎日新聞神戸支局／読売新聞洲本支局／
　　㈱ラジオ関西／洲本市教育委員会／淡路市教育委員会／
　　（一財）淡路島観光協会／南あわじ市商工会
協　賛：エイベックス㈱／ピグマリオンホールディングス㈱／㈱タカラ／
　　㈱テイチクエンタテインメント
協　力：文化庁／㈱杉友／㈱ボイスミュージック／㈱ライジングプロダクション／
　　㈱LDH JAPAN／㈱メロン／㈱Showtitle ／㈱ファインステージ／
　　アセアン事務局／日中友好会館／日韓文化交流基金／
　　国際交流基金アジアセンター／㈱JTB
対　象：小学生、中学生、高校生及びそれらの年齢に相当する個人、またはグループ
公式サイト：http://asianfilm.chu.jp

総来場者数：700人（国内入場者数：570人　海外入場者数：130人）

■開催内容

映画祭：12月7日（土）

子ども達が自らの手で3分間の映画作品を作成し、その中から優秀作品を選出し、上映・表彰を行った。

国内141作品と海外329作品の合計470作品が応募された。作品のテーマは「迷惑をかけることとは～自分だけが、良ければいいか？人のことも考えてあげられるか？～」

杉良太郎氏をはじめ4名の審査員により優秀作品が選出された。各賞は杉良太郎特別賞、法務大臣賞、外務大臣賞、文部科学大臣賞、経済産業大臣賞、優秀賞4作品、入賞4作品。

表彰プレゼンターとして、杉良太郎名誉会長、伍代夏子、石田純一、コロッケ、しゅはまはるみ、EXILE ATSUSHI、w-inds、白間美瑠が出演した。

国際交流：12月5日～12月8日

南あわじ市のウェルカムセレモニーが南あわじ市中央公民館で行われた。学校訪問では、市内の大学・高校・中学などで体験学習を実施し、部活動や授業を通じて交流を図った。

また、国内映画制作者や関係者が参加する交流会が開催され、映画祭終了後には作品制作者同士が交流するアフターパーティを実施し、各国の伝統芸能などパフォーマンスがあり、参加者同士の交流が図られた。

映画祭の翌日は、アジア12か国・地域の子ども達による成果報告会も開催された。











ヨコハマ・フットボール映画祭2020











会　期：2020年2月25日（土）～31日（金）
会　場：25-26　横浜市・開港記念会館　　27-31　シネマ・ジャック＆ベティ
主　催：ヨコハマ・フットボール映画祭実行委員会／
　　（特非）横浜スポーツコミュニケーションズ
後　援：横浜市 市民局／（一社）日本障がい者サッカー連盟／
　　（特非）日本ソーシャルフットボール協会／
　　（特非）日本ブラインドサッカー協会
対　象：サッカーファン、映画ファン、その他スポーツファン
公式サイト：https://2020.yfff.org

総来場者数：2,300人
ビジネスエリアの来場者数：670人（国内入場者数：660人　海外入場者数：10人）
出展社数：26社
出展参加国と地域数：1の国と地域
プレス社数：6社

■開催内容

10度目の開催となる今回は、ジャパンプレミア6作品を含む11作品を上映、関連イベントを5プログラム実施した。

まず、夏に開催されるTOKYO2020オリンピック・パラリンピックにおいて、TEAM GB（イギリス選手団）が横浜市で合宿を行うことを記念して、イギリスのパラアスリートに密着したドキュメンタリー2作品（WHO I AMシリーズ）を上映し、市民の関心を促した。

また横浜国際総合競技場で行われる男子サッカー決勝での活躍が期待される斎藤未月選手にフォーカスしたドキュメンタリー『追憶のルブリン～キャプテンの葛藤と責任～』では、菅原慎吾プロデューサーとナレーションを担当した声優・今井麻夏さんによるトークショーが行われた。

クロアチアの文化と歴史をサッカーを通じて知れる2作品を上映、本国から来日したプロデューサーが、在日クロアチア大使や東欧サッカーに詳しいジャーナリスト長束恭行氏と共に、舞台挨拶、Q&Aを行い、両国の親善を図った。（※なお、『ヴァトレニ -クロアチアの炎-』は、1月27日（月）東京・広尾の駐日欧州連合代表部にて、クロアチアのEU議長国就任レセプションでも上映され、高円宮久子殿下にもご鑑賞いただいた。）

『審判～ピッチ上の、もうひとつのチーム』では、現役のプロフェッショナルレフェリーである家本政明氏と本作の石井紘人監督によるライブコメンタリー上映を実施した。普段は黒子として試合を支えている審判の苦労やそれぞれのパーソナリティ、今後の展望をオフレコ話も交えて語った。

統合失調症やうつ病などの精神障がい者が競技に打ち込む『ソーシャルフットボール イタリアからの挑戦』の上映では、作品に登場するサッカー大会を企画した田中暢子氏（日本障がい者サッカー連盟 理事）と日本ソーシャルフットボール協会の理事でソーシャルサッカー日本代表を担当している真庭大典氏が登壇。大会の成り立ちや、イタリアと日本との治療環境の違いを説明しつつ、精神障がい者にソーシャルフットボールへの参加を呼びかけた。

サポーターによるスタジアム修復工事を記録した『スタディオン』では、チェコから、作品の監督とプロジェクトのリーダーが来日し、日本のサポーターとの交流を行った。

『89』では熱狂的なアーセナルサポーターである笹木香利さんが「歴史を知ればよりサッカーは楽しめる」ことをアピールした。

また、2019年5月に逝去した降籏康男監督の幻のサッカー映画『わが青春のイレブン』（1979年）を追悼上映した。

ヨコハマ・フットボール映画祭2020

ヨコハマ・フットボール映画祭

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

今回から、横浜市市民局による後援が実施され、より安定した準備が実現した。

従来の開港記念会館での週末2日間の上映に加えて、平日に、シネマ・ジャック＆ベティにて追っかけ上映を実施。広く映画ファンにもアピールした。

会場内に、休憩室を設置し、来場者へのホスピタリティの向上を行った。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

初の試みととして、サッカー大好き芸人によるバラエティショー「横浜フットボール芸人フェスティバル」を同時開催。シロたろしを筆頭に10名のサッカー芸人が集まり、モノマネや大喜利を披露し、新しい客層の開拓に貢献した。

サッカーの様々な楽しみ方を体験できるフットボール文化祭は3年目を迎え、26団体が参加した。

・相模原へのスタジアム建設要望の署名受付
・女子サッカー選手が起業した「TSUKUMI」によるブラジリアンホットドッグの販売
・アパレルブランド「GOAL STUDIO」とのコラボレーションによるスタンプラリー
・エチオピアでのチャリティサッカー大会の景品受付
・おはじきサッカー体験会
・新作女子サッカー映画『フートボールの時間』PRブース



パートナーイベント

東京アニメアワードフェスティバル2020　※開催中止

会　期：2020年3月13日（金）～16日（月）
会　場：池袋シネマ・ロサ／池袋HUMAXシネマズ／グランドシネマサンシャイン／
シネ・リーブル池袋／新文芸坐／区民ひろば南池袋／サンシャインシティ 噴水広場／
サンシャイン水族館／豊島区庁舎／Hareza池袋／WACCA 池袋 等
主　催：東京アニメアワードフェスティバル実行委員会／（一社）日本動画協会
共　催：東京都
特別協賛：豊島区
協　力：アニメーション美術家連盟／（公財）画像情報教育振興協会／
日本アニメーション協会／（一社）日本アニメーター・演出協会／
（一社）日本音声製作者連盟／（協組）日本脚本家連盟
後　援：㈱国際交流基金／日本アニメーション学会／日本映像学会／
㈱日本貿易振興機構／（公社）日本漫画家協会／（一社）練馬アニメーション／
文化庁／（公財）ユニジャパン
対　象：一般層、ファミリー層、アニメーション・映画のファン層、アニメーション関係者
公式サイト：https://animefestival.jp/ja/

■開催内容

東京アニメアワードフェスティバルは、新たな人材の発掘・ 育成、アニメーション文化と産業の振興に寄与することを目的とし、『**東京がアニメーションのハブになる**』を合言葉に、高いクオリティとオリジナリティに富む世界中の作品を東京で上映し、世界中のアニメーションを愛する人々との交流を図り、クリエーターや観客に刺激と感動を提供し、そしてその感動や刺激を糧にアニメーションの新たな波を東京から世界へ発信する国際映画祭である。

東京アニメアワードフェスティバル（TAAF）2020は、2002年に「東京国際アニメフェア」の一環として行われた「東京アニメアワード」を独立・ 発展させた国際アニメーション映画祭で、2014年より開催され2020年で7回目の開催である。

日本国内で未興行の世界のアニメーション作品を対象にした「**コンペティション部門**」、日本国内で発表されたアニメーション作品を対象とした「**アニメ オブ ザ イヤー部門**」、アニメーション業界に貢献された方々を顕彰し、先人達の歴史、技術、生き様を伝える「**アニメ功労部門**」を中心に、その他招待作品の上映やトークショー、シンポジウム、子供向けのワークショップなどを実施する。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

本年度は初の試みとして、2019年6月にアヌシー国際アニメーション映画祭併設マーケット「MIFA」へ東京アニメアワードフェスティバルとしてブース出展し、現地で本映画祭の実施についての告知及びコンペティション部門への応募喚起を実施。その結果、コンペティション部門への応募数が大幅に増加した。（TAAF2020：1,083作品／TAAF2019：793作品）

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

【プレイベント実績】
●7月21日（日）『アナザー デイ オブ ライフ／ANOTHER DAY OF LIFE』特別上映会
共催：インスティトゥト・セルバンテス東京
協力：ラテン・ビート映画祭
●8月20日（火）『とびだせ三鷹の星空へ!天文台とアニメーション!』イベント上映会
共同主催：㈱ロボット／㈱さらい／国立天文台
賛助：三鷹の森ジブリ美術館
●8月25日（日）《こどもアニメーション部門》ワークショップ「アニメ水族館パート1」
●9月29日（日）ロニー・オレン スペシャルクレイワークショップ
特別協力：豊島区
【連携イベント実績】
●9月28日（土）インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル2019での『イスラエル学生作品特集』への作品提供協力及び『とらのあな』への講師紹介
主催：インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル
●11月2日（土）・3日（日・祝）としまマンガ・アニメフェスタへの作品提供
主催：豊島区、中野・杉並・豊島アニメ等地域ブランディング事業実行委員

HYPER JAPAN Festival 2019

会　期：2019年7月12日（金）～14日（日）
会　場：Olympia London, Hammersmith Rd, Hammersmith, London, W14 8UX
主　催：Cross Media Limited
後　援：（特非）映像産業振興機構（VIPO）／在英国日本国大使館／
日本貿易振興機構（JETRO）／日本政府観光局（JNTO）／
（一財）デジタルコンテンツ協会（DCAJ）／（一社）日本動画協会（AJA）／
（一財）自治体国際化協会（CLAIR）／
㈱国際交流基金（The Japan Foundation）／
（一財）日本音楽産業・文化振興財団（JMCE）
対　象：一般来場者/国内・海外ビジネス来場者/プレス他
公式サイト：https://hyperjapan.co.uk/

総来場者数：80,000人
出展社数：313社（開催国内出展者数：255社　国外出店者数：58社
うち日系企業：57社）











■開催内容

16回目を迎える本催事は、1886年に建築されたロンドン中心部最大の見本市会場「Olympia London」で開催され、日本の漫画やアニメ・音楽・ファッション・食・伝統文化・ゲーム・テクノロジーなど、多様な面から日本の「今」を紹介するイベントとして、日本への関心が高い若年層からシニア層まで幅広い年代の英国在住者が来場した。

会場内のステージ『HYPER Live』には、「ファイナルファンタジー」XI、XVI、劇場アニメ「ベルセルク黄金時代篇三部作」コンセプトデザインの他、日本語版「ガフールの勇者たち」挿絵、「ポケモンカードゲーム」カードイラストレーション等の作品で活躍する有田満弘氏、昨年度公開され国内外から高評価を受けた映画「カメラを止めるな!」に出演した女優のしゅはまはるみ氏がそれぞれトーク・サイン会を開催。「暗黒系アイドル」をコンセプトに活動しているネクロノマイドルと、日本の伝統楽器・三味線でロックを奏でるKUNI-KENがライブパフォーマンスを披露し、観客を熱狂の渦に巻き込んだ。

現地コスプレイヤーがステージに集う『COSParade presented by COSPO』（KAWAII JAPAN, Inc協賛）では、英国の若者たちが思い思いに日本のファッションを披露した『HYPER J-Style Collection Fashion Show』の他、『HYPER Bon-Odori』と題した盆踊り大会を行い、来場者が輪になってオリジナルの振り付けをマスターする等、J-Popからアニメまで様々な日本文化が詰まったバラエティ豊かなステージとなった。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

今回は、任天堂による話題のゲーム機「Nintendo Switch」体験ブースが登場。「Pokémon Sword」「Pokémon Shield」「Luigi's Mansion 3」「The Legend of Zelda: Link's Awakening」等、最新ゲームを国内で初めて試遊出来る場となった。又、世界的人気の「DRAGON BALL SUPER」特別エリアを東映アニメーションが展開。その他AR（拡張現実）技術を活用したテクノスポーツ「HADO」のトーナメントも開催され、更にコンテンツが充実化された。

2019年、2020年と続けて日本で国際的なスポーツの祭典が開かれるのを前に「Season of Culture（日英文化季間）」に賛同し、日本文化を体験できる『Activity Area』を設置。ミニラグビーボールのペインティングワークショップ（Uniball / POSCA UK協賛）、愛知工業大学によるCGお絵描きワークショップ（株式会社トゥーマーカープロダクツ協賛）の他、パラリンピック競技「ボッチャ」を体験出来るエリア等が展開され、ティーンエイジャーから子供連れのファミリーまでが様々なアクティビティを体験した。日本からは東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が出展、マスコットキャラクターのフォトブースと、桜の木をモチーフにしたメッセージウォールを展開。多くの来場者が足を止めて参加し、記念写真をSNSに投稿する姿が見られた。観光出展エリアには東日本旅客鉄道㈱、小田急電鉄㈱、東京空港交通㈱、British Airwaysを始めとする企業や、神奈川県、三好市などの

HYPER JAPAN Festival 2019





自治体も参加し、来場者への観光プロモーションや市場調査を行った。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

今回は初めての試みとして、毎年人気の高いフードエリアを『HYPER JAPAN』と同時開催のイベント『EAT-JAPAN Live!』として展開。英国の食通を対象に様々な要素が盛り込まれた。

大手食品輸入企業 Harro Foods Ltd.と共催の食品展示会『Harro Foods presents JAPAN FOOD SHOW』が初回を大きく上回る46社出展で開催され、金曜は250名を超える英国の現地大手食品小売業だけでなく有名レストランのバイヤーやシェフ、食品メディア関係者が来場、B to Bのビジネスマッチングの場を提供した。土日はB to Cイベントとして日本食に興味のある現地の人々と出展者とが直接対話出来るマーケットリサーチの場として大いに賑わいを見せた。今年は出展品が購入出来るショップも併設し、黒ごまラテパウダーや紫蘇ジュース、レトルトカレーが売上げの上位を占めた。

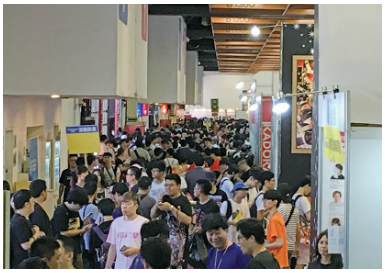
日本酒テイスティングイベント『Sake Experience 2019』は、9蔵27種の日本酒、果実酒が出品され、土日の2日間を通して約800人の来場があった。参加者は日本から参加の酒蔵から直接説明を受けながら、スパークリング酒やにごり酒など様々なタイプの日本酒を飲み比べて投票、「People's Favourite」部門では土佐酒造（高知県）の「YUZU SAKE」、「Best Sake for Sake Beginners」部門で松竹梅白壁蔵（兵庫県）の「白壁蔵澪スパークリング清酒」、「Best Match with Non-Japanese Food」部門は菊水酒造（新潟県）の「ふなぐち菊水一番しぼり」が各々1位を獲得した。併設の酒ショップでは2,500本の酒が売れ、出品酒を実際に購入出来る場として好評を得た。

フードデモステージ『HYPER Kitchen』ではエスビー食品によるカレー、わさびを使ったワークショップを開催。現地の食文化に精通したクッキングインストラクターやシェフが講義を行い、商品ローカライズの機会になった。その他にもKIKKOMANやマルコメによる日本の調味料を使ったワークショップやYO! Sushiなど現地レストランのシェフによるステージ、1955年創業の老舗和菓子店喜田家から職人を招待して日本の歴史とともに歩む和菓子の文化を紹介するなど、様々な切り口から来場者に日本食の魅力を伝えた。加えてイギリス初進出となった「銀だこハイボール酒場」を始め、全農による和牛串や今川焼き、日本のビールや日本酒を使ったカクテルなども販売され、来場者は日本のソウルフードに舌鼓を打ち、日本の夏の雰囲気を味わっていた。

2019年Comic Exhibition　台湾漫画博覧会

会　期：2019年8月1日（木）～5日（月）
会　場：台北世界貿易センター（Taipei World Trade Center）
主　催：中華動漫出版同業協進会
後　援：文化局
対　象：一般・出版・アニメ関係者・音楽関係者・教育関係者・玩具関係者・ゲーム関係者等
公式サイト：https://www.ccpa.org.tw/comic/

総来場者数：595,000人　※前年比106%
出展社数：130社（約1,200ブース）











■開催内容

中華動漫出版同業協進会主催の「漫画博覧会」は、1995年より開始され、2019年で20回目を迎えることになりました。台湾の夏を代表する非常に大きなイベントとして、台湾だけでなく、アジア各地からファンが駆けつける一大イベントとなっています。出展企業にとっても、漫画博覧会参加により、台湾市場および中華圏（中国・香港・マカオ・シンガポール・マレーシア）への進出や、接触、露出の場を増やすことによる強力なプロモーションを、費用を抑え、効率の良い形で実施できます。単発的なイベントの参加以上のメリットを出す機会として、アジア圏進出に向けて活用いただけます。日本との親和性が高く、距離も比較的他の海外よりも近いこともあり、台湾だけではなく、アジアで行われているアニメ、漫画のイベントの指標として、業界全体の発展に寄与しています。

イベントのプロモーションでは、主催企業である大手漫画出版社が持つ「雑誌」「新聞」「WEB」等の媒体や、協力媒体などのプラットフォームを使用して、漫画博覧会を注目されるイベントにしております。

2019年は約1,200ブースが使用され（昨年対比：約120.0%）、出展者数も増加、更なる拡大を続けております。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

今年度は、ゲームエリアを新たに拡充することで、コミック、アニメだけでなく、より来場者にとって魅力の高いイベントとなった。日本館エリアでは、日本のクリエイター、声優、アイドルといった様々なジャンルのステージを実施することで、来場者に、ブースでの購買体験に加え、イベントならではの限定体験を提供することができた。特に、「Production I.G」後藤隆幸氏による、作品の制作過程を紹介する貴重なトークショーとサイン会の実施や、人気アプリゲーム「アイドルマスター ミリオンライブ！ シアターデイズ」の声優、プロデューサーを交えてのスペシャルトークショーは大いに盛り上がりを見せた。スターダストプロモーションのアイドルグループ「TEAM SHACHI」「たこやきレインボー」「ばってん少女隊」「いぎなり東北産」によるライブステージは、現地のファンだけに留まらず、日本からもファンが駆け付けるなど、日台の来場者間の交流を印象付けた。

バンコク日本博2019













会　期：2019年8月30日（金）～9月1日（日）
会　場：タイ　バンコク
　　サイアムパラゴンショッピングセンター5階ロイヤルパラゴンホール
主　催：バンコク日本博2019実行委員会　ジェイエデュケーション
後　援：在タイ日本国大使館／㈱日本貿易振興機構（JETRO）／
　　日本政府観光局（JNTO）／国際交流基金バンコク日本文化センター／
　　タイ国日本人会／東京都
対　象：一般、ビジネス
公式サイト：http://nipponhaku.com/

総来場者数：84,000人
ビジネスエリア来場者数：81人（開催国内来場者数：49人　国外来場者数：32人
　　うち邦人来場者数：32人）
出展社数：176社（開催国内出展者数：98社　国外出店者数：78社
　　うち日系企業：78社）
出展参加国と地域数：約20の国と地域
バイヤー数：36人（開催国内バイヤー：32人　国外バイヤー：4人
　　うち日系バイヤー：4人）
プレス社数：75社（開催国内プレス社数：67社　国外プレス社数：8社
　　うち日系プレス社数：8社）

■開催内容

バンコクの中心にあるショッピングセンターのサイアムパラゴンにて、「バンコク日本博2019」を8月30日から9月1日で実施。

コンテンツ、トラベル、ショッピング、食、留学、就職などの日本の魅力を網羅し、日本のコンテンツ力を活用して、集客に活かすとともに、各産業の紹介、そしてタイにおける需要の創出と発展につなげることを目的としている。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

・イベント開催前に、日本人アーティストをタイのテレビ番組に出演させ、イベントの告知とアーティストの認知を広めた
・ONE PIECEのルフィの巨大バルーンをステージ脇に飾り一際目立たせた。9月公開の同映画プロモーションにもなった。
・WORLD ORDERのライブ生配信と、タイ・日ファンを交えたファンミーティングを開催し、その様子をSNSに投稿。タイファンだけでも40人以上集まり、各々がメンバーとのショットをSNSにアップし拡散されたことで、プロモーションに効果的であった。
・西野亮廣の絵本「チックタック約束の時計台」の原画展を開催。絵本の世界観をそのまま空間に演出。ライトアップされた原画と空間装飾で、来場者を魅了した。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

イベント後も引き続きタイでの販売を目指している企業に、現地の百貨店（伊勢丹、サイアム高島屋、東急、モールグループ）との引き合わせをした。また、自治体や旅行会社、地方の食材・伝統工芸を扱っている「トラベル関係」の出展者については、現地旅行会社とのビジネスマッチングを実施した。

タイの大学日本語学科の学生が「日本の地域」をテーマに文化祭ブースを出展。各々が担当する地域をブース内で表現することで、大学生に各地域への関心を持ってもらうとともに、自分が担当した地域への愛着を持ってもらうことで、タイの大学生に日本を好きになってもらうきっかけ作りをした。



Madman Anime Festival - Melbourne 2019

会　期：2019年9月14日（土）・15日（日）
会　場：メルボルンコンベンションアンドエキシビションセンター
主　催：Madman Events Pty Ltd - Nathan Kershaw
対　象：アニメなど日本のポップカルチャーのファン
公式サイト：https://www.animefestival.com.au/

総来場者数：12,000人

■開催内容

マッドマンアニメフェスティバルは、毎年オーストラリアの4大都市で開催されています。

このイベントはアニメと日本の文化のフェスティバルで、オーストラリア最大のアニメ大手であるマッドマンエンターテインメント社と、オーストラリアでナンバーワンのアニメストリーミングサービスであるアニメラボ社がスポンサーです。

エキサイティングな海外からのゲストや出展者、コスプレ、ライブステージの公演、ポップアップショップ、上映、そしてこのイベント限定のアニメ上映など、Madman Anime Festivalはすべての日本のポップカルチャーファンに楽しんでもらえるイベントです。









C3 Anime Festival Asia Singapore 2019


開場前の風景


I ♡ ANISONG CONCERT


AKIBA STAGE


FOOD STREET


AFA FILM FESTIVAL

会　期：2019年11月29日（金）～12月1日（日）
会　場：Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre
主　催：SOZO Pte. Ltd.／㈱創通／㈱Zeppライブ／㈱ホリプロ インターナショナル
協　力：㈱ソニー・ミュージックエンタテインメント
後　援：Singapore Tourism Board
対　象：アニメ、コミック、ゲームを始めとした日本のポップカルチャーファン、ビジネス関係者
公式サイト：http://animefestival.asia/singapore19/

総来場者数：123,211人（過去最多）
出展社数：68社（開催国内出展者数：36社　国外出店者数：32社
うち日系企業：20社）
出展参加国と地域数：7の国と地域
プレス社数：55社（うち日系プレス社数：7社）

■開催内容

SOZO Pte. Ltd.が企画・主催する「Anime Festival Asia」と、株式会社創通企画・主催する「C3」が、2017年パートナーシップを結び、より強固なプラットフォームとなったC3 Anime Festival Asia（以下C3AFA）。シンガポールでは12回目を迎えるC3AFA Singapore 2019は、11月29日から12月1日の3日間開催された。

●コンサート「I ♡ ANISONG CONCERT」(11月29日、11月30日、12月1日)

毎年イベントの目玉として3日間開催される「I ♡ ANISONG CONCERT」では、アニソンアーティストを中心に計12組が出演した。

出演者（英文字アルファベット順）：
11月29日：fhána／内田真礼／SCANDAL／TRUE
11月30日：BLUE ENCOUNT／JUNNA／MYTH & ROID／ReoNa
12月　1日：大橋彩香／田所あずさ／May'n／茅原実里

●日中ステージ「DAY STAGE」(11月29日、11月30日、12月1日)

人気コンテンツのトークショーを中心とした「DAY STAGE」では、9つの特集コンテンツとそれに伴う17名ものゲストが出演した。

●展示会会場(11月29日、11月30日、12月1日)

5つのエリアに分けて以下の通り展開された。
エリア1：「AKIBA TOWN」
52ものブースが設置され、グッズの販売や新作の展示などが行われた。
エリア2：「AKIBA STAGE」
ご当地アーティストやアジア各国からのコスプレイヤーを中心としたステージ。
エリア3：「AFA PLAY」
主に体験型ブースが並び、ゲームなどを楽しめるエリア。また、「AFA PLAY」内に設置された「AFA PLAY STAGE」では様々なゲームが特集され、トーナメントも開催された。
エリア4：「CREATORS HUB」
ファンによるマンガ・アニメ・ゲーム関連グッズの即売エリアとなっており、100のグループが参加した。
エリア5：「FOOD STREET」
各企業による日本食販売会場となっており、14企業が出展した。

■2019年度の新規取り組みとその成果・特色など

「AFA FILM FESTIVAL」

2019年初の取り組みとして「AFA FILM FESTIVAL」が開催された。「AFA FILM FESTIVAL」では3日間に渡り6つの映画、ライブ映像の上映を行なった。上映された映画の中には東南アジア未公開作品もあり、本イベントのみでの特別上映となった。「AFA FILM FESTIVAL」では映画のみならず、「HYPNOSISMIC -Division Rap

C3 Anime Festival Asia Singapore 2019

Battle- 4th LIVE @OSAKA Day 2 Battleground C3AFA edit.」や「ゾンビランドサガ LIVE～フランシュシュみんなでおらぼう!～in SAGA」等ライブ映像も上映され、ファンはペンライトを持ち込み、まるで実際のライブが行われているような空間となった。


I♡ANISONG CONCERT コラボステージ

「I♡ANISONG CONCERT」コラボステージ

12月1日、日曜日の夜に開催されたコンサートでは4組のアーティスト（大橋彩香／田所あずさ／May'n／茅原実里）が出演し、アンコールでは4組のアーティスト間で2曲のコラボステージが実施された。この4組のアーティストがコラボを果たすのは本イベントが初となり、3日間のイベントを締めくくるにふさわしいステージとなった。

「DAY STAGE」で行われた「Online Talk Show」

本イベントでは初となるオンライントークショーが行われた。ゲスト2名（高垣彩陽と豊崎愛生）のスケジュールの都合上イベント開催国シンガポールには実際に足を運ぶことは出来なかったが、ビデオ通信を通して日中ステージへの出演を果たした。ステージのスクリーン上に2名の映像を映し出し会場にいるMCとのトークショーを繰り広げ、トークショーの最後には事前に用意された直筆サイン色紙をめがけて、観客全員とゲスト間でジャンケン大会が開かれるなど、日本にいるゲストとシンガポールにいるファンがオンラインを通じてではあるが、交流できる新たなステージとなった。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例・件数・成果

本イベントは、映像コンテンツマーケット「TIFFCOM」との連携を果たした。「TIFFCOM」では、オフィシャルウェブサイトに本イベントのロゴが掲載されるとともに、本イベントフライヤーがイベント期間中に配布された。本イベントのウェブサイトでは、「TIFFCOM」のロゴを掲載し、本イベントのオフィシャルオンラインメディア「SO JAPAN」でバナーを掲出した。

また、アジア各国で大人気のタピオカ店「Tiger Sugar」シンガポール国内全8店舗にて、本イベントのオフィシャルキャラクター「AFA君」のスタンディーとイベントリーフレットをイベント開催日までの数週間設置すると共に、「Tiger Sugar」のSNSアカウント上でコンサートチケットプレゼントのキャンペーンを行なった。シンガポールの若者を中心に大人気の、行列の耐えないタピオカ店「Tiger Sugar」との今回の連携は、イベントにとって良い露出となった。

4-iv　コ・フェスタ実行委員長、副委員長によるイベント開会式への来賓出席と挨拶





コ・フェスタ2019のイベントのうち、いくつかの開会式やレセプション等でコ・フェスタ副委員長が来賓として挨拶を行い、広くコンテンツ産業の来場者の方へコ・フェスタの意義と日本コンテンツの利活用の重要性をアピールした。

●東京ゲームショウ2019開会式・懇親会

幕張メッセにて2019年9月12日（木）に開催された「東京ゲームショウ2019」開会式へ迫本淳一実行副委員長が来賓として出席、テープカットと挨拶を行った。その後、場内視察では様々なブースを回覧した。

●第46回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール授賞式

2019年11月8日（金）、NHK放送センターにて第46回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール授賞式と受賞者パーティーが開催され、重延浩実行副委員長が出席した。授賞式内では来場者の前でコ・フェスタの来賓として紹介された。授賞式後のパーティーでは、国内外の放送関係者達と交流した。

参考資料- i　コ･フェスタアンバサダー施策について

コ･フェスタ2012年から組織している日本コンテンツファンの外国留学生を中心としたコ･フェスタアンバサダーが、各自の持っているSNSから情報発信し、日本コンテンツの海外発信に協力した。

・アンバサダー個人のSNSアカウント（facebook、Instagram、twitterなど）にて、
イベントの様子を投稿。

参加したイベント：外務省（第13回日本国際漫画賞授賞式）

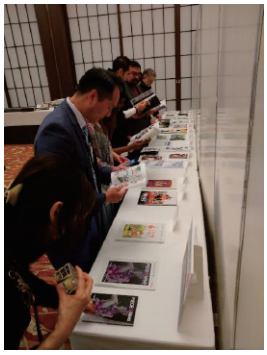
無断転載・複製を禁ず。Copyright © 2017. コ･フェスタアンバサダー運営事務局

参考資料- ii
イベントへの協力：外務省(第13回 日本国際漫画賞授賞式)

イベント名：第13回 日本国際漫画賞授賞式
日　　時：2020年2月18日(火)
19:00~19:30 授賞式 / 19:40~21:00 レセプション
主　　催：外務省 (※同省より招待を受け、アンバサダーが参加)
会　　場：外務省飯倉別館「レセプションルーム」
参加内容：7ヵ国7人からのコ･フェスタ アンバサダーが式典に参加。
展示されていた入賞作品を熟読したり、各国からの入賞者と懇談して漫画文化を深く理解しSNSで発信し、
同賞の海外発信に貢献。



【授賞式】
①若宮健嗣外務副大臣より主催者ご挨拶
②最優秀賞1作品、優秀賞3作品および作者に対し、賞状とトロフィーが授与。
最優秀賞：Guy Lenman「Piece of Mind (ココロノカケラ)」
優秀賞：Pitsinee Tangkittinun「My little in summer sseason」
優秀賞：Jonatan Cantero「Korokke and the girl who said no」
優秀賞：Guilherme Petreca「YE」
③里中満智子審査委員長より講評。



【レセプション】
①茂木敏充外務大臣より乾杯のご挨拶
②受賞者スピーチ

無断転載・複製を禁ず。Copyright © 2017. コ･フェスタアンバサダー運営事務局

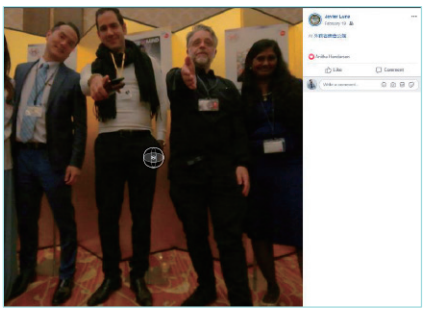
第13回 日本国際漫画賞授賞式　参加アンバサダー：計７ヶ国7人

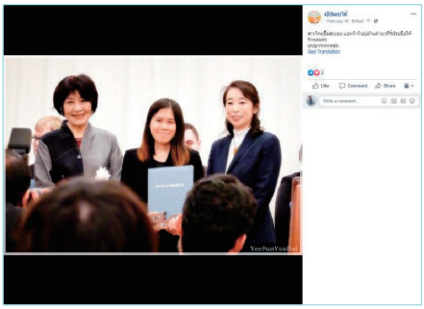
No.	名前	出身国・地域	所属
1	**ビセンテ・ルナ**	スペイン	ハレクサ
2	**メディ・フリス**	フランス	INSAリヨン
3	**アニサ・ヘンダーソン**	アメリカ	フロンテオ
4	**レイチェル・リン**	シンガポール	セイローガイ
5	**サムエル・ユエン**	オーストラリア	ニューヨークフィルムアカデミー
6	**パチャラパン・シンウォングス**	タイ	チェラロンコン大学
7	**エドガー・ペラエズ**	メキシコ	早稲田大学大学院

CoFesta

無断転載・複製を禁ず。Copyright © 2017. コ・フェスタアンバサダー運営事務局

第13回 日本国際漫画賞授賞式　参加アンバサダー









CoFesta

無断転載・複製を禁ず。Copyright © 2017. コ・フェスタアンバサダー運営事務局

コ・フェスタ 2019　実施報告書

発行日：2020年3月
発　行：特定非営利活動法人映像産業振興機構
デザイン監修：㈱サムライ
Printed in JAPAN
© VIPO2020

住　所：東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル2F
電　話：03-3543-7531
F A X：03-3543-7533
https://www.cofesta.go.jp/

※著作権者から文書による許諾を得ずに、無断で複写・複製することは禁じられています。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

R70
古紙パルプ配合率70％再生紙を使用